

あなたの意識ではありませんか、

参考にしてください

第一卷



一、私の宇宙、私の心に感じている宇宙は、まだまだ苦しみの中にございます。私は、それを大きく、大きくとらえています。

私の中には、アマテラスが生きています。この\*\*\*\*を表す世界が生きています。その思いは、確かに強いです。

今、私は宇宙を思っています。私の中には、宇宙があることを感じます。でも、それは、この\*\*\*\*という次元を超えることはない、今、そのように感じます。

\*\*\*\*さん、そうですね。私もそのように感じます。

私が申し上げている宇宙、アルバート、タイケトメキチ、その世界、あなたと違います。あなたの感じている世界とは違います。

私は、そのことをお伝えしたいと思います。でも、あなたは、確かに、心を田池留吉に向けてようとなさっております。

肉でも、その努力をされているのが、よく分ります。

田池留吉の肉を憎んでこられました。田池留吉を下に見てきたあなたにとって、心を田池留吉に向けてようとするのは、並々ならぬものがあると思います。私は、それを感じます。しかし、だからといって、あなたが感じているものは、私が伝えている宇宙とは違っている、今、あな

たにお伝えしたいと思います。

二、私は、\*\*\*でございます。真実へ繋がる道に、ずっと以前から集ってきた私なのに、私は、もう少しで、この道を、またもや見失うところでもございました。それほど、肉の思いが強い私でした。

何をしていても、心が苦しかったです。毎日、毎日を、私は、どんな思いで、生活していたのだろうか。学びを離れてから、私の心は、きつと苦しみの中を、のた打ち回っていたんだらうと、今、思います。

ようやく肉を、再び、真実の方向へ、向けようと思いました。  
主人も、ともに、学ぼうと言ってくれます。

あの当時、私は、\*\*\*という、己を表してきました。

私も、素晴らしいチャネラー、そのような思いで、ずっと、意識を受け続けてきたんです。

それが、私の周りで、色々と現象が起こってきて、私は、自分がとても、苦しいところにあることを知りました。

それが、とても許せなかったんです。私には、許せなかった、そんな自分は、認められなかった。だから、この学びを去りました。

\*\*\*という、己を表すことができなくなった、私は、今世もまた、自分を裏切るところでございます。

\*\*\*さん、私は、塩川香世と言います。私は、あなたのことは、ほとんど知りません。セミナーの中でも、一、二度、お見かけしたくらいで、そう、直接、お話ししたことはございません。ですが、少し前、あなたが、ゆっくりと話をしてみたいとおっしゃったことが、私の中に残っていました。

今、私は、あなたと、お話しています。

\*\*\*さん、よく戻ってこられましたね。とても嬉しいです。

心の中に、溜め込んできたエネルギーは、みんな同じです。

あなたには、優しそうなご主人がついておられます。ともに学べる仲間ですね。ともに、学んでいってください。毎日の生活の中で、自分を見つめていってください。

三、\*\*\*さん、お元気ですか。お身体はどうでしょうか。身体の調子はいかがでしょうか。私の身体は、とてもきつい状態にございます。

最近、特にそのように感じるんです。それとともに私の中から、すごい恐怖が出てまいります。身体を病んでいることは、ずっと以前からそうでした。でも、この心の中の死に対する恐怖、すごいものがあります。それを、私は、最近、特に感じるようになりました。

思わず、電話をさせていただきました。田池留吉に電話をさせていただきました。先生の声が聞きたかったのです。

私は、もっと違うことを聞きたかった。田池留吉の声を聞き、田池留吉の思いを知りたかった。私は、この先どうなるのか、私には、今、何をすべきなのか、私に答えてくださいと、私は先生に向かつて言っております。

心で言っていました。先生は、瞑想のことについて、言われました。

そう、私は、瞑想ができません。瞑想をすると、私は、あの神、私が心に広げてきた他力の神々のほうに、心が向くことが分かるからです。

苦しいんです。あの神に心を向けることは、とても苦しい。どうして、いとおいしいなんて

思えるのでしょうか。私の心は、苦しみだけです。瞑想が嫌です。瞑想が、たまらなく苦しい。しかし、田池留吉は、瞑想しなさい。瞑想をしてごらん。そのように、私に伝えてくれました。

田池留吉の思いに、素直に従おうとしても、従えない自分がある。これは、私が私をせき止めていることが分かります。

心を向けるな。心を向けるな。田池留吉に心を向けるのではない。

私が私に言っているのです。これが、私の、今の状態です。この中で、私は、心に向けないと言われました。ああ、そう言えば、私は、母に使った心を、真剣に見ていくことをやっています。

私は、母が嫌いでした。父の言うことに逆らえない母を見ると、たまらなく悲しい思いを感じてきました。ああ、苦しい母親を見て育ちました。

どうして、どうして、あんな父親の言う通りにするんだ。もっと、自分の思い通りにしろ。お前は、父の奴隷か。私は、母に向かって、そう言いたかった。でも、そう、その思いをこらえてきました。母が苦しい思いをすると、私は、私までが苦しむと思ってきたからです。

今は、その当時に比べると、私達親子は天国です。誰に気兼ねすることもなく、一日を過ごさせていただけます。

ただ、母親は、私の身体をとても、心配しています。

\*\*\*、私より先に死なないでください。母の思いが伝わってきます。

私は、田池留吉でございます。

そう、\*\*\*さん、あなたが、瞑想がとてできにくいことを、私は知っていました。そう、瞑想をすると、あなたは、狂ってしまうことを感じているのですね。私は、あえて、そのあなたに対して言った言葉、あなたに言った言葉は、あなた、しっかりと瞑想をなさい。しっかりと、しっかりと心を向けなさい。田池留吉にしっかりと心に向けなさい。あの冊子に書かれているように、そして、ホームページに伝えられているように、本にも書かれています。

しっかりと、あなたの心で感じていってください。私があなたに伝えることは、このことだけでございます。

四、私は、\*\*\*と言います。私の心の中に、たくさん私がいて、その私が、苦しいとか、寂しいとか、色々な思いを吐き出しています。今世の私は、その思いを、少しなりとも、自分の心で感じられる、そんな私でした。しかし、そんな私が、私にやはり冷たいと感じています。



私は、私に冷たい。そのように感じています。

なぜかしら、涙が出てきます。自分を思うとき、涙が出てきます。

苦しい、辛い、寂しい、そんな私を、ずっと押さえ込んできた自分自身、それがあなたですよと、伝えられても、私は私を、存分に抱きとめてやれない私を感じるから、何とも言えない思いを感じます。

\*\*\*さん、あなたの心の中に、しっかりと入っていますね。あなたは、その思いを見つめてきましたか。その人に対する思いを見つめてきましたか。肉で流されているあなたではありませんか。

私は、一人の人を心に入れたまま、ずっと、今までやってきました。学びに触れた動機がそれでした。どうしても、どうしても、この人に会いたい、そのように私は思いました。その思いが、いまだに、自分の中でしっかりとあります。その思いを、自分の中で見つめるということ、してきませんでした。いいえ、見てきたつもりです。でも、つもりはつもりで、私は、やはり、とても自分に甘いと思います。

肉での繋がりを失いたくない、切りたくない。そうですね、欲の思いもありますが、その

思いの中身は、色々です。

でも、すべてが肉です。肉を土台にした思いです。その思いを、私は見ていない。こんな思いがある、あんな思いがあるとは、自分の中で反省を進めてきましたが、その土台の肉、そこに至る思いを、私自身は、まだ見つめておりません。

\*\*\*さん、あなたにはあなたの道があります。あなたの道というのは、あなたとあなたの中で、真実の方向へ向けて歩いていく道です。

あなたは、あなたにとっては、学びの仲間かもしれませんが、一人の人を心に入れていますが、それは、あなたにとつて、とても大きな壁となっています。

あなたは、あなたの心を見ていくのです。あなたは、あなたを受け入れていくのです。あなたの中で、まだまだ自己確立の方向に行っていないから、一人の人を心に入れた思いが、大きく、大きく膨らんでいきます。

言うなれば、それが壁となつて、あなたの中で立ち塞がっています。肉のあなたは、瞑想しようとか、そういう思いになっていると思えますが、壁は壁として残ったままです。

その壁を薄くして、失くしていくのは、あなた自身です。あなたとあなたの中で歩んでいく道、その道を、どうぞ、早く、自分の中で見つけていってください。

時間は、そんなに残されていないと思います。

心を見つめる時間、あなたとあなたの中で対話をする時間、大切にしていってください。

五、\*\*\*\*\*さん、\*\*\*\*\*さん、心を田池留吉に向けなさい。

心を田池留吉に向けて、今のあなたの思いを語ってください。

私は\*\*\*\*\*でございます。

私の心の中に、すさまじいエネルギーを感じます。

私はパワーが欲しいのです。パワーをください。パワーをください。私こそ素晴らしい、私はこの宇宙に君臨するエネルギーでございます。

タイケトメキチに心を向けることができない、今でございます。私の心はタイケトメキチに向けることができない。苦しいです。なぜ、このような私がいるのでしょうか。

一生懸命、一生懸命、私は学んできたつもりでございました。ああ、でも、私の学びは肉でございます。肉の次元を超えることはなかった、できなかった。でも私は、肉の次元を超

えていると自分では思っておりまして。すべてが間違いでございます。間違い続けてきた自分を感じています。でも、私の心の中は、このすさまじいエネルギーに牛耳られております。心に向けてなど私の中が言ってくるのです。お前には、素晴らしい私が付いている、お前は素晴らしい、お前こそ素晴らしい。田池、田池などくそくらえ。この思いが、私の中でこだまするのが分かります。

ああ…、苦しい。はい…。苦しいです。

今、あなたの思いを聞かせていただきました。とても、残念でございます。今世、あなたはどのような思いでお母さんから、その肉体をいただいたかご存知でしょうか。お母さんを思っただけでいいです。お母さんの思いを感じてみてください。あなたの心を救いゆくものは、ただただ、そのひとつでございます。

あなたは、これからどの道を進まれますか。地獄の道ですか。今にもまさる地獄の道をまっしぐらに進んでいかれますか。

今があなたの心の決め時でございます。もう、あなたには、もはやこの時を逃しては、チャンスがありません。

私とあなたとどのように違っているのでしょうか。私とあなたとの違いを、あなたは、いつも自分の心の中に尋ねられました。

ああ、あなたは私のことを感じておられますか。あなたは私のことを、どのように感じていますか。

私は、塩川香世の意識でございます。私は、そう、\*\*\*さん、分かりますか。

私もひとつの肉体を持って、このように語らせていただいています。私もあなたと同様、パワーを求めてまいりました。宇宙に君臨するパワーを求めてきた者でございます。

心の中に苦しみを抱えたまま、この肉体を今世いただきました。そして、私は、タイケトメキチという意識の世界と触れさせていただきました。すべては私の計画でございます。

私は、何としても、この心をタイケトメキチ、真実の自分に戻したかったのでございます。それは、あなたとて同じだと、私は感じています。私は、右を選びました。本当の自分の指し示す方向を選びました。必死になって、私はその方向を見つめさせていただきました。この暗黒の中から、私は蘇らせていただきました。

宇宙に君臨するパワーを求めてきたあなた、私も同じでございます。とても苦しかったです。

あなたの思いを感じさせていたでいて、私は、他人事ひとごととは思えない、いつしよだと思えます。

しかし、私はこちらを選びました。必死になって、自分の思いを見つめてきました。母に思いを向けました。殺してやりたいエネルギーをしっかりと心に見つめました。母の意識は、私に何度も答えてくれました。あなたは、温もりですよと、私に何度も答えてくれました。ただただ答えてくれました。タイケトメキチに心を向けると、母の意識が伝わってきました。私は、ただただ、その思いを信じていこうとしました。

ああ、それが私の今世のセミナー会場における私の学び方でした。あのセミナー会場は、すごいところでございます。

私は、あなたもそのように感じていると思っておりますが、どうでしょうか。

あなたの中のエネルギーが炸裂するとき、私は、私を感じていました。

そして、私とあなたと違うところは、そのエネルギーを自分の中に受け入れていったところでございます。私の中の温もりの中に入れて、私は、私を受け入れてまいりました。エネルギーを吸収していったのでございます。私は、私のエネルギーを吸収してまいりました。

それほど、私はすごいエネルギーの持ち主だと感じました。すごいというのは、あなたが言うすごいという感覚ではございません。

ひとつのエネルギー、己偉し、己高しのエネルギーを、温もりに変えることができるのは、

そう、大きなエネルギーでなければなりません。私は、それを、ただただ身に感じさせて  
いただいた。だから、私にとって、あのセミナー会場は、すごい世界だったのです。

私は私と出会わせていただいた時間と空間でございました。

タイケトメキチがどんどんどん、心の中に入ってまいりました。

このように、目を閉じていると、自分の来世を感じます。すごい時間が用意されているの  
が分ります。すごい時間と空間を用意しているのが分かります。

もう一度、\*\*\*さん、あなたにお尋ねします。

あなたは、本当に心からタイケトメキチを捨てられるのでしょうか。お母さんを捨て去る  
ことができるのでしょうか。あなたにお尋ねしたいと思います。

私は、そして、あなたにお伝えします。

あなたがお母さんを捨て去り、タイケトメキチの心を捨て去っても、タイケトメキチも母も、  
あなたを捨て去ることはありません。本当の自分をあなたは、捨て去ることができない。それ  
をしつかりと心を感じていってください。あなたはあなたを捨て去ることなどできない。あな  
たがどれだけ間違った道を歩もうとも、あなたがあなたを捨て去ることはできない。苦しみと

して、それをあなたがあなたに伝えてくる。そのことをしっかりと感じていくこれからでございます。

タイケトメキチから去っていくあなたを感じるのがとても辛いです。はい、とても辛いです。心に向けるようにしてまいります。待っています。待っています。

タイケトメキチがそのように答えてきました。

六、私は、\*\*\*でございます。私の住んでいるところは、とても他力の強いところでございます。他力信仰の強いところでございます。宗教色がとても濃いところでございます。その中でこの学びを進めていくことは、どれだけ大変なことなのか、私は、身を以って体験させていただきました。

私も何度か、挫けそうになりました。四面楚歌の中で、私は、そんな思いも抱えたこともございました。しかし、私は、やはり、この学びだと思えます。いいえ、私の中では、その思いが、以前よりも強くなっていることは、確かです。



主人の病気がございました。主人の存在が、とても大きなきっかけでございます。

心を、こちらに向けてくれなかった主人でしたが、私達にやはり、気付きを与えてくれたのは、主人の病気でございました。

不思議な体験をさせていただきました。

少し、時間をいただいたようです。肉の時間を、私達は、少しいただきました。

歩みは、のろいかもしれませんが、今世、何とか、半歩でも、前に進みたい、今、そのように思っています。

七、私は、\*\*\*でございます。私の中に、私はできている、私の感じている世界は素晴らしい世界だ、そのような思いが、こびりついて離れません。

田池先生にも、何度か、指摘されました。あなたの思いの向け先が違っているよということと言われました。

しかし、私は、瞑想をするとき、その方向に心が向いていくのが、分かります。そして、心に伝わってくるのを感じるので。

それでいいんだ、それでいいんだ、お前はやっている、お前は感じているんだ、そう、そ

の感じたものをただただ信じていけばいい、そのような思いが伝わってくるんです。

\*\*\*さん、奥さんとはうまくいっていますか。奥さんとの仲はどうでしょうか。

私も、もう年ですから。私は家内しか頼る人はございません。

そういう意味で、私は、何とか夫婦の仲をうまくいかせようとしています。しかし、家内は、なかなかこの思いになびいてきません。

私の思いが辛かったんでしょう。私の思いを辛く受け止めてきた年月が長かったのかもしれない。しかし、私達は、何とかやっています。

心の底から夫婦になってよかったとは、言い難いですけども、何とかやっている、そのような状況です。

もうひとつ、お伺いします。あなたは、以前、\*\*\*さんというチャネラーを重く扱われました。そのことについて、今、あなたは、どのように思われていますか。

はい、申し訳ないと思っています。私が潰したようなものです。

私には、欲がありました。立派なチャネラーだと思い、この者を利用していききたい、自分の会社にも、自分にとつても、あの者をうまく利用していききたいという欲がございました。その欲で、私は、彼女を苦しめ、彼女を潰してしまいました。それは、私の罪でございます。申し訳ございません。ああ、申し訳ございません。

八、\*\*\*さん、心をタイケトメキチに向けてください。

分かりますか、あなたの心をタイケトメキチに向けてるんですよ。そして、語ってみてください。私は、\*\*\*です。こんな人生が待っているとは、私には、とても信じられません。本当に苦しい人生です。私の中には、苦しみしか残っておりません。心をタイケトメキチに向けなさいって、私には、もう遠い遠い存在でございます。心を向ける、その向け先が、全く、私には見えないのです。ああ、苦しい、苦しい、苦しい。

\*\*\*さん、あなたは、今、非常に苦しい状況にあることは、察しられます。それは、そうです、あなたは自分の心を見ずに、己というものを誇ってきたからです。

過去からの同じ過ちを、今世もあなたはして、まだその反省がなされていません。でも、少し見方を変えれば、とても簡単なことなんですよ。

あなたが、あなたを崩していけばいいんです。私は、何も分かっていなかった、私は、大バカ者だった、申し訳ございません、そのように母の反省を通して、自分に心からの懺悔が出てくれば、あなたの苦しみは、少しずつ変わってまいります。

あなたの心の中にも、やはり、母の温もりが生きていたことを、あなたは感じられるからです。それを感じるあなたがあります。でも、あなたは、それをしないでください。

己があまりにもそびえ立って、それができないんです。それが、あなたがあなたを地獄の底の底に陥れている、確固たる原因です。

誰が落としていったのでもない、自分が自分を落としていった、そのことを、あなたは、ただご存知ないんです。

かく言う私も、過去に、今世以前において、同じ過ちを犯してまいりました。私は、神の声を聞く者として、そして、またある時は、人の心を操る立場において、その過ちを繰り返し返してまいりました。

人の心を弄んできたとも言えるでしょう。私は、その大きな、大きな罪を背負って、今世、

生まれてきたのです。そして、学びに、予定通り、集えました。私も、あなたと何ら変わるところはございません。

しかし、私は、何度も言ってきましたが、自分の決意がございました。

もう二度と、同じ過ちを繰り返してはならない、自分に言い聞かせて生まれてきたのです。それがこの学びに集う時期というところにも出ておりますし、私のこの肉が徐々に敏感になるということにも表れています。

私は、そうやって、自分を自分で導いてきました。あなたも、本当は、自分を自分で導いてきたのですよ。

ただ、周りがあるあなたを祭り上げただけです。その祭り上げたものに、あなたは、乗っかってしまった。それが、あなたの大きな落とし穴でございました。その時に、あなたはあなたの心をしつかりと見ることをなさっていたならば、いくら祭り上げられても、その穴に落ち込むことはなかったのです。どうぞ、そのことを、もう一度、しっかりと心に入れて、苦しい中でも、心を向けていこうと、いつてほしいと、私は、思っております。

九、私は、\*\*\*でございます。己偉い私がございました。どこまでもそびえ立つ私があ

りました。すさまじいエネルギーを心に蓄えてきた私でございました。

はい、誰にも負けたくない、負けたくない。我は一番、そのような思いで、私は、ずっと存在してきたことを、今世、この学びを通して、心で知るといふチャンスに、恵まれてきたんですね。

そのチャンスをとことく、潰していったのは、やはり、己の偉い私でございました。

素直に、真摯になって、その言葉が、今、心に響いてきます。

お母さん、お母さん、お母さん、私は、どこまでも、己を誇りたかった。

お母さんの心を捨て去って、私は、どこまでも、己を誇りたかった。

その心の裏は、寂しさと恐怖でございました。今、私は、その自分を、ようやく、少しですが、素直になって、見つめていこうと思っています。

\*\*\*さん、苦しかったあなたの心を、どうぞ、どうぞ、お母さんの温もりへ帰していただけてください。

一〇、私は、\*\*\*でございます。長く学ばせていただいた者でございます。

申し訳ございません。私は、真つ暗でございました。

今、母を看ながら、私は、自分の学びの時間を振り返っています。

はい、心を振り返るといふことをしています。

私は、私の心を見てきませんでした。見てきたつもりでした。ああ、それは、まさしく、つもりでした。私は、己を知りませんでした。

自分の苦しい心を知りませんでした。長い時間、それは、自分の転生の時間からすれば、ほんの短い時間ですが、その時間の中で、私がやってきたことは、己を表すことばかりでございました。

そのことに、ようやく気付きかけてきたところです。ただ、そのほんの少しの気が、とても嬉しいです。心をしっかりと見てまいります。

しっかりと見てまいります。

一一、私は、\*\*\*と申します。女性は美しくあらねばなりません。

美しく、いつまでも美しく輝いていたい、私の望みでもあります。

心と体のバランスがとても大切です。女性というものは、とても、そのバランスが大切だ

と思います。常に前を向いて、前向きな姿勢で、自分の人生を歩いていく、闊歩していく、そのような女性が、ひとりでも多く、この世に誕生することが、私の願いでございます。

\*\*\*さん、心と身体のバランスと言われましたが、あなたは、あなたの心というものをご存知でしょうか。

私の心ですか。

心とは、何を指しているのだろうか、今、ふと思いました。心の中に上がってくる思いを指しているのか。

私は、いつも、いつも、自分にハードルを課してきました。生きていく上で、自分に対して、ハードルを高く、高く持ってきました。ひとつの目標を、いつも自分の中に掲げてきました。

もっと素晴らしい自分に、そして、より美しく、周りを幸せにできる私でありたい、周りにパワーを降り注げる私でありたい、そのように私は、心から思ってきました。この心を指して言うのでしょうか。

それも、あなたの思いのひとつだと思いますが、私が申し上げているのはそうではありません



せん。

あなたの心の奥底に眠っている様々な苦しい思いです。あなたは、表面は、綺麗に着飾っています。そう、服装もきちんと、身なりもきちんと、姿勢もきちんと正されて、そう、あなたの生きる姿勢は素晴らしいと思います。その奮い立たせてこられたあなたのその心の中を、あなたは、ご存知かと、私は、尋ねています。

あなたの心の叫びが伝わってきます、響いてきます。

苦しい、苦しい、苦しいと、そして、そう、私は寂しいんです、寂しいんです。いつも、いつも私の周りには、人がいて、人のおいがして、人の息が感じられる、そのような空間に、自分を置いていきたい。

私は一人では嫌。暗闇の世界は嫌。

どこまでも明るく、明るく、自分を明るいところへ、連れて行ってくださいと、私は、私を引っ張っていきます。その心の底に眠る思いは、寂しきでございます。

総じて、創作活動に思いを向ける人は、心が敏感な人が多いです。

この方も、たぶんそのおひとりだと思います。

今は、肉ではまだ気付かれておりませんが、自分の中の苦しさ、苦しい思いを、近い将来

この方は、感じられると思います。中の思いが響いてくる、その時は近いと思います。

そういうときに、自分の作ってきた世界に埋もれていくのではなく、自分の作ってきた世界に、自分を誤魔化していくのではなく、もつと自分を前面に引き出して、自分をしっかりと見つめていってくださればと思います。

そうすると、そうですね。この方は、今やっておられる活動はできなくなるかもしれませんが。中の自分と、偽りの自分とのギャップを心で感じ、とても、苦しい思いをされるかもしれない。そこが、ひとつのチャンスではありますが、そのチャンスを活かせるかどうかは、この人にかかっていると思います。

一一、\*\*\*さん、あなたの今の心の状態はいかがでしょう。

ご主人に対して、お母さんに対して、その思いは、少し、変わってきましたでしょうか。今のあなたの思いを聞かせてください。

はい、私は、\*\*\*です。

いっしょに生活をしている中で、少しずつですが、私の中で変化が出てきているのは確か

です。でも、まだまだ苦しい思いを使っています。母にも夫にも、私は、まだまだ苦しい心を使っています。私の言うことを聞け、我に従え、この思いが、根深く、根深く残っています。

あなたは、日々瞑想を心掛けておられるでしょうか。時間を作って、あなたは、瞑想をなさっていますか。

私は忙しいんです。私の時間は、忙しいです。はい、忙しいといつても、私は、自分で忙しくしているのかもしれませんが。どうしても、心が外に向いてしまいます。ああ、あれはどうなっているだろうか、これは、こうしなければならぬ。以前の私に比べると、少しは、ましになりましたが、でも依然、私は、自分の心が外に向いているのを感じます。

あなたの心の中の、寂しさにお気付きでしょうか。心の中の寂しさを、あなた自身は、どのくらい、自分自身で感じておられるでしょうか。

心が外に向いている私は、じつくりと自分の寂しい思いに、心に向けたことは、正直言ってあまりありません。人間みんな誰しも寂しい心を抱えているとは思いますが。私もその例外で

はないと思います。

でも、私は、私の心の中の寂しさに、思いを馳せるといふことをあまりしていません。怖いんです。怖いんです。その思いに触れること自体が怖い。私は、自分がどうなっていくのか分からない、その恐怖があります。

あなたの肉は、そうですね、よく気が付くし、身体は、こまめによく動かすし、周りの人達にとっては、やはり、頼もしい存在だと思います。

でも、もう少し、心を、中に向けていくようになさってください。

心の中のアマテラスは、あなたの中で、まだまだしつかりと根付いています。しつかりと根を下ろしているアマテラスの心を心として生きるのではなく、タイケトメキチの世界に心に向けることをやっていってください。真剣にやっていってください。

一三、\*\*\*さん、○○○○について、反省をたくさんされました。たくさんのお話を思い出されました。綴ってみられてどうでしょうか。今、あなたの中で、あなたが信じてきた○○○○という宗教の世界、○○○○という人、それについて、今どのように思っておられますか。

はい、私はまだまだこの心の中に、○○○○で教えていただいたことを握っております。○○○○に対してもそうです。まだまだこの心に、あの方は素晴らしい、素晴らしい、素晴らしい力の持ち主だと私は思っております。

私は色々との当時を振り返り、思い出せるだけ思い出してみました。あんなこともしました。こんなこともしました。あんな思いを使ってきた、こんな思いも広げてきた、すべて間違ってきた、私はバカだった、そのような反省をしてきました。ああ、でも心の底から、私はバカだったなんて思っております。私の中に○○○○で培ってきたたくさんの知識、私の中でまだまだ生きております。頭を使うことが大好きです。言葉に酔っている私がございます。言葉こそ力なり、私は、そのように心の中を、自分の心の中を振り返ってみたときに、そのような思いが出てきます。

頭を回しては何も分からない、そうなんです。何も分からない、心に感じることもできない、今、私はそのように思います。でも、私は、この頭を動かします。ああ、あれはどういうことなのか。あの意味はどういうことなのか。心で感じるとはどういうことなのか。心に響いてくるとはどういうことを言うのか。すべて、私はこの頭が動くのです。しかし、私の心の中に、広がる暗黒の世界、そのすさまじいエネルギーを感じます。タイケトメキチに思いを

向けることが恐怖でございます。

瞑想が捗りません。それが私の現在でございます。

私は、\*\*\*の妻、\*\*\*でございます。私は、誰にも負けたくない、誰にも負けたくない、負けたくない己一番の世界を築き上げてきました。この心がとても苦しいです。夫にも負けたくない。しっかりと自分の心を見なくてはならない。夫はどんな反省をしているのか。私は、いつまで経つてもこの心が、自分の中から抜け切れないことが、とても苦しいです。

確かに、私は、夫に勧められるまま、○○○○をやってきました。しかし、私はアマテラスを自分の中に広げてきたんです。自分で広げました。私には、その自覚がまだまだ足りないことを感じます。

私は、今、あなた方の反省文を毎日毎日読ませていただいています。でも、私の心に届くものは、アマテラスの中での反省にしか過ぎない、そう、私にはそのようにしか響いてきません。アマテラスを神とし、アマテラスに仕えている中で、あなた方の反省がなされていることを感じます。ああ、もちろん、心をしっかりとかタイケトメキチに合わせようとしている姿はうかがえます。でも、心は、心は、アマテラスでございます。

アマテラスの心を心とした中で、そう、反省がなされている、私は、そのように感じさせていたでいています。

私が言いたいのは、そうではございません。アマテラスの心を心としてではなく、アマテラスに、優しい、優しい思いを向けて、反省をしてくださいとお伝えしたい。

アマテラスは苦しい、苦しい世界で待っていることを、心で確認していつてください。

一四、\*\*\*さん、あなたは、まだまだ苦しい中にいるのですか。あなたの苦しみは、まだまだ続いているようですが、あなたの心を語ってみてください。

私は、\*\*\*です。田池留吉を恨む心、田池留吉を見下す心、田池留吉に食ってかかる思い、私の中で見てきたつもりです。

でも、この心の中から、どんどんどんどん湧き出てくる思い、これだけ、私は、詰め込んできたのかと思います。

ああ、その一方で、私は、この道しかなくとも感じています。

母のもとへ帰りたい、本当の自分に帰りたい、その思いが、あるからこそ、どれだけ苦し

みのた打ち回っている私の中であっても、私は、この学びを捨て切れずにきました。

\*\*\*さん、○○○○は、そうあなたが思っていた○○○○は、苦しみの底に沈んでいるということを、感じておられると思います。

それでも、あなたは、その○○○○を自分の心から離すことができないのでしょうか。

そうです。私も、心で感じています。私の中で、○○○○だとしてきた思い、やはり、私も肉では、分かっています。

でも、どうしようもないんです。○○○○、その思いを、私は、しっかりと自分の中で握ってきた自分を、まだまだ、そう、その心を自分の中から、解き放つことができないでいます。確かにそれはそうです。私は、それを認めざるを得ません。

一五、\*\*\*さん、あなたの足の調子はいかががでしょうか。あなたの足のほうに思いを向けて、あなたの心を語ってください。あなたの培ってきた思いを語ってください。



お母さん、お母さん、お母さん、ああ、私は、お母さんを超えたかった、超えたかった。私は、お母さんを超えたかったです。素晴らしき者として、私の上に立つ母を、私は超えたかった。その思いを強く、強く抱いてきました。今もお、瞑想をすると、母を思うと、そのような思いを感じます。

この思いこそが、私の身体に出ている現象に表れていると思います。

アマテラスの心は、そう簡単には修正できないことを感じます。

私の身体を思うとき、私は、アマテラスを、強く、強く自分の心に握ってきたことを、感じざるを得ません。

こんなにも強く、アマテラスを崇拜してきたのか、私の心の中にアマテラスの心が生きている、そのことを感じます。

はい、\*\*\*さん、心を田池留吉に向けましょう。ともにともに向けてください。

はい、今、私は、田池留吉を思っております。

はい、このようにして、私は私を思っていくんですね。

私も、自分の肉体細胞に、心に向けて、瞑想を続けてきました。でも、こんな思いを向け

ることはできなかつた、いいえ、してこなかつたんです。異語…。

心にいとおしさが響いてきます。私が私に教えてくれている優しさ、この肉体細胞を通して、今、感じさせていただいています。

一六、今回、あなたは、セミナーに初めて集われて、田池先生に、色々質問されました。次から次へとあなたは質問されました。

そして、マントラ、ダライラマ、色々現象を通して、あなたはその耳から勉強されました。今あなたは、そのことについて、どのように思っておられますか。どうぞ、語ってみてください。

そうですね、全く否定はできません。だからと言って、はつきりそうだとはいって申し上げられない。なぜならば、私は、まだまだ何も、ここで伝えられているお母さんの反省をしていないからです。

自分の心を見ていないからです。自分の心を見るということを、初めて聞きました。心を見るということは、どういうことだろうか。

思いを追っていく、思いを見つめていくとは、自分を見つめていくとは、私には、それは

分らないのです。

私は、自分で研究してきた事柄、自分の知識として蓄えてきた事柄、それは、ある程度、自分の中で、頷いているところがございます。まだまだ捨て切れない、しっかりと握っています。ですが、私には、そう、正直に申し上げまして、私にはショックでした。ドライバーマが、自分こそ救ってほしい、自分は苦しい、苦しい、苦しい心の奥底にいる意識だと、言われた、その心の叫びが、耳に焼き付いて離れません。

一七、私は、\*\*\*\*でございます。

私のこれからの何年間が、私にとって、重大な時間です。私にとっては、重大な時間です。この\*\*\*\*という肉にとって、とても大事な時間なんです。

誰にも邪魔されたくありません。

私は、私の苦しさを知っています。でも、私のこの大事な時間だという思いも、本当なんです。だから、私は、とても苦しいです。はい、私は、とても苦しいです。自分をまた裏切るのかと自分に問う思いが、心に返ってきます。私は、自分のその声を抑えに抑えて、今、毎日を過ご

しています。

肉はそれなりに楽しいです。そう、それなりに楽しいです。ですが、私の心の中は、分かっています、苦しきさでいっぱいです。

\*\*\*さん、私は、ダライラマの意識がどういうものかを心で感じている者でございます。あなたは、それを心に感じておられますか。あなたは、そのことを心に感じながら、それでも、今のままでいいのでしょうか。

はい、私に、無理なことは言わないでください。お願いです。私に、その答えを求めないでください。私は、正しい答えは知っているんです。

でも、その正しい答え通りに、私は、生きていくことができない。そこに、私の苦しみがござります。

そう、私には、一本の道が見えています。一本あるだけの道が見えています。その一本の道を、ただひたすらに歩みを進めていくこと、これが私の喜び、幸せだと感じています。

それだけでいいんですね。色々な人の生き方があります。色々な人の歩み方があります。私

は、それらの人達の生き方、歩み方を、肉を通して知りながら、そして、また、私のこの一本続く道を歩いていく、ただそれだけでいいんですね。

意見を乞われたなら、私は、私の思いを語るだけでいいんですね。しっかりと自分の思いを語ることに、私の信じる道はこうですよ、この道を私は歩いていきます、それが私の喜び、私の幸せ、私の生きる道、これが私自身だと、はつきりと言える私があればいいんです。

一八、私は、\*\*\*でございます。田池留吉に歯向かってきた私の心の中はすごいんです。私自身は、田池留吉に歯向かってきたという思いを、まだまだ感じているわけではございません。しかし、私の意識がそのように伝えてきます。

私は、己の頭を誇ってきました。頭を絶対なるものだとして、私は、やってきました。だから、私は、この学びについても、頭で、理解しようとしてきました。頭で、分かってきました。そのことが、全く分かっていないということが、なかなか分からなかったんです。

でも、私は、自分の健康を損なうということで、自分に気付きを与えてきました。あなたは間違っている、あなたは間違っている、あなたの心の向け先を見てください、見

てください、そのように自分に伝わってくる優しい思いを、私は、またこの肉で押さえ込もうとしました。

どこまでも、己の偉い私でございました。

あなたは、奥さんのことを、どのように思っていますか。

私は、家内を見下してきました。女を見下してきた。女は男についてくるもの、女という存在を見下してきた。私は、その思いが、とても強いです。

この学びを家内とともにやってきましたが、いつも私が上でした。

一家の長である私が、いつも先頭をきつて、家族を引っ張っていく。この学びも、その姿勢で臨みました。家族は、私の下で、学んでいけばいい。私が先頭に立つて学ぶ、その道筋を、私が、家族に示している。そのような感じで、私達家族は学んできた。そのように、私は、振り返っています。

あなたが心に入れてきた教祖を、今、どのように思っていますか。あなたの中で、少しは、小さくなっていますか。

私は、常々、そうずっと、ずっと、ずっと、比較してきました。

心に入れてきた教祖と、学びで話をされる田池先生、ふたつを比較してきました。そして、いつも、私が心に入れた教祖が、私の中では、上でした。

教祖を思い、田池留吉を思ってきた。教祖を先に思い、田池留吉を思ってきた。その順位は、ずっと、ずっと続いておりました。

私は、どうして、こんなに愚かなのか。今、自分を自分で語ってみて、本当に愚かな自分を感じます。しかし、私の心は、ずっと、その愚かな自分を誇ってきたんですね。今、自分の心を語る私を感じ、ふと、そのように思い、お母さんを思います。

\*\*\*\*さん、そうです。お母さんを思ってください。あなたは、何もなかった。もともと、あなたの心には、何もなかった。

ただ、お母さんが、お母さんの温もりが、お母さんの優しさが、それが、あなた自身であるということがあっただけです。その事実があっただけです。そのことに、早く気付いていてください。

厳しい転生を重ねてこられました。そして、今世を迎え、今、あなたは、あなたの心を、少

し修正されるチャンスを得たんです。どうぞ、あなたの肉体を終えるその日まで、そのことに取り組んでいってください。

心をお母さんに、そして、タイケトメキチに、何も思わずに、お母さんに、タイケトメキチに、ただ心を向けようとなさってください。

一九、\*\*\*さん、セミナーに足繁く通われました。あなたのその肉の努力は、大変なものです。ですが、あなたの心の中を見ていってください。どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

私は、\*\*\*でございます。

タイケトメキチ、私がタイケトメキチと心を向ける先は、まだまだ他力の中のタイケトメキチでございます。

私の中は、他力でいっぱいです。嬉しいと思うときもあります。お母さん、ありがとうって、思えるときもあります。セミナー会場でも、私は、自分の心の中に響くときが、たくさんありました。



しかし、私の心の中に蓄えてきた他力のエネルギーは、すごいんです。

すごいから、私は、大変な努力をして、セミナーに集わせていただいていたいました。他力のエネルギーがそうさせるのだと思います。心の中の他力のエネルギーも、本当は、お母さんの温もりに帰りたいんだなああって、私は思います。そんな優しい私が、少しでも、今感じられることが、今世の収穫と言えば、収穫でしょう。

他力の厳しい、険しい道を、ひたすらに歩んできました。私の道は、険しかった、厳しかった。今、そう思います。

どれだけ他力のエネルギーが強くても、心に蓄えてきた他力の層が厚くても、必ず、その層は薄くなる、自分の中の本当の温もりで、溶かしていくことができる、そう信じてください。何をもってそう言えるのか。

それは、あなたの心でこれから、明かしていくってください。私は、信じる者は救われる、そう言っているではありません。

無心に、自分と自分の中を見つめていく、ただそれだけでございます。

二〇、\*\*\*さん、心を語ってください。

私は、\*\*\*です。私の中にも他力のエネルギーがたくさん詰まっています。キリストを神としてきた私でございました。

私は、その心を、自分なりに見てきたつもりです。そう、私もつもりです。命がけでと田池先生が、言われました。

でも、私の心の中に、はて、私は、命がけでやってきたらどうかと、自分に聞けば、答えは、「いえ」しか返ってきません。たくさん間違いをしてきたことは分かります。たくさん間違いだった思いを広げてきたことは分かります。でも、私は、やはり、この肉が自分だという思いに沈んでいる、そんな意識でございます。

\*\*\*さん、あなたは、あなたがずっと信じてこられた宗教によって、自分の命が救われたと思われていますが、この学びに集ってからも、あなたは、大変な病気になって、今はどうでしょうか。

あなたも不思議な体験をされたのではないのでしょうか。

はい、そう、私は、この学びに集つてから、大変な病気になりました。

ああ、あの時、私は、それこそ、心の底はといえば、他力だったのでしよう。でも、ずっと田池留吉を思っていたのでしよう。私の中には、田池先生という思いがあつたのかもしれない。それは、他力といえば、他力ですが、私は、あの一瞬、田池留吉と、自分の中で呼んだのかもしれない。

田池留吉と呼べば、奇跡を呼び起こす、そういうものではありませんが、あなたが、その一瞬、ふつと心は合つた、それは確かだと思います。それが今現在、あなたが肉の時間を、少しだけだしているような結果になっていると思います。

肉の時間をいただいたんです。肉から意識への転回は難しいかもしれませんが、しかし、どうぞ、心を見ていってください。自分の過去を思い、これからを思う、そんな時間に肉の時間を使つていってください。

二一、\*\*\*さん、どうでしょう。アマテラスに浸透しているあなたの心、その後、変化はございましたでしょうか。

私は、\*\*\*です。なかなか、しぶといものがありますね。私は、自分でつかんできたこのアマテラスの思い、本当に根深く残っていることを感じています。突き詰めて考えていけば、私は、私に冷たいということですね。私は私に冷たい。アマテラスに浸透する私は、私に冷たい。そのように私の中に響いてきます。

あなたのご主人に対する思いを語ってみてください。

あんな男、あんな男、私は、そうあんな男と足蹴にしてみました。

形は、そうではございません。だから、私の中は矛盾だらけです。

心は、意識の世界は、あんな男です。でも肉では、きちんと体裁を整えている、それが、私の中で矛盾を起こしています。

優しいところだってあるんですよ。そう、そうなんです。いいところはたくさんあります。

でも、心の底はととても冷たい。私は、氷のような思いを感じるんです。これは、私の姿だと言え、そうでしょうが、私は、そこが、まだまだ認められません。あの人の心の中は、なぜこんなに冷たいのか。私は、それを感じるたびに、私は、とても苦しい。

あなたは、ご主人に、この学びのことを伝えましたか。

はい、もちろんですよ。でも、あの人は見向きもしない。私が何をやっても、あの人は無関心なんです。私もそれでいいと思っていました。

邪魔されることなく、家を出してくれる。私は、それでいいと思っていました。でも、それって、互いに冷たかったんですね。

お互いに、いいように、行動して、無関心を装いながら、しかし、心の中で戦いを繰り広げている、アマテラスの心のままですね。

\*\*\*\*さん、あなたは、もちろん、お母さんの反省もされていると思います。瞑想も続けておられると思います。

ですが、本当のお母さんの温もり、本当の優しさ、そういうものを、心に感じておられるかと言えば、それは、そうではないと思います。

その思いを感じたならば、あなたの心から、波動として、さしずめ、あなたのご主人に流れていくのです。自然にあなたの態度は、心の中から出てきます。体裁を整えるのではなく、

心の中から出てきます。

何気ない仕草の中にも、ふっと優しさが伝わっていきます。

それが波動の世界です。お母さんの温もりを心に感じたならば、それが、自然に出てくるのです。だから、その思いを、ご主人は感じて、あなたへの態度を和らげると思えます。残念ながら、今のあなたの状態では、少々難しいようですね。お母さんの温もり、それが、唯一のカギでございます。

二二、\*\*\*さん、心を語ってみてください。

はい、私は、\*\*\*です。私の中に不安な思いがいっぱい、いっぱい詰まっています。私は、不安なんです。自分のこれから先がどうなっていくのだろうか、不安で仕方がありません。そして、私は、その一方で、これでよかったのか、よかったのだろうか、絶えず、私は自分にそう聞きます。不安だから、自分に聞くんです。でもそんな思いで、自分に聞いたって不安が募るばかりです。

そう、あなたはこれでよかったんですよ、そんな思いを期待して、自分に聞いているのが

よく分かります。

不安な心はどうしようもない。これから先の私を思うとき、不安な思いが心に広がってきます。

\*\*\*さん、あなたは、なぜそんなに不安な思いが広がっていくのか、分かりますか。

はい、私は、心が敏感です。普通の人だったら、ずっと通るところも、私は心に感じるところがあるんです。それが、これから、自分がひとりになって、ひとりで生活をしていく、その中で、私は、どれだけ、その敏感な心をコントロールできるのか、それがまず大きな不安です。そして、次に……。ああ、いいえ、それだけです。

私は、自分自身でまだ気付いていないところがあります。

私は、自分のことばかりですね。自分しかなかった。自分の苦しいのは、あの母親のせいだ。私の心をかき乱すのは、あの母親だ。あんな母親、私の目の前からなくなってしまうば、私はどれだけこの心の中が楽になるか、そればかり、私は、考えてきました。思ってきました。

私は、今、これからの私を思うとき、不安な気持ちになるのは、自分は、あまりにも恵まれた状況の中で、ただ己の培ってきた世界の中で自分が荒れ狂っていただけだった、そういう

自分を、まだしつかりと、自覚していないところにあります。

私は、私を知らないのです。知りません。

たくさんのことを学びました。たくさんのことを学ばせていただきました。しかし、それを私の中で、本道へ歩いていく方向に活用していくということについては、まだまだまだまだでございます。

私は、私の道は、まだまだでございます。

\*\*\*さん、私達の、今現在の段階は、肉というものを持つて、自分を見つめるという段階です。肉のことは苦しい、肉のことはどうでもいい、そうではありません。愚かな肉、苦しい肉、そういうものを通して、自分の心を見る、心の世界を見る、それが私達の今現在の学び方です。

肉の生活を整えてください。心が敏感だ、そういうところに逃げずに、自分の肉の生活を整えていく、肉を自立させていく、それがあなたにとって、とても大切なことだと思えます。

心が敏感だから、だから、その先は何なのでしょう。心が敏感な肉を、あなたは、自身で選んできました。その中で、あなたは、あなたを見つめるシナリオを書いてきたんです。

自分を大切にしてください。



自分を大切にするということは、どういうことなのか。これから、あなたの生活を通して、色々なところから学んでいけると思っています。

二三、\*\*\*さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

私は、\*\*\*です。頭で反省を続けてきました。頭でこねくり回して反省を続けてきました。反省しなければならぬという恐怖から、私は、日々の反省をしてきました。

すべて、頭でした。すべて、肉でした。

そのことが分かったんです。ああ、本当に心で感じるということをしてこなかったことが、私の心に響いてきました。

\*\*\*、この肉を持っていた、このことが、このことだけが、喜びだったんですね。私は、今、そのように感じています。

母は、そのことを、伝えてくれたのでした。母を見下げ続けてきた、そのことを、母は、私に伝えてくれた。あなたは、私を見下げているよ、たった一言、そのことを伝えてくれた。そのため、私は、あの母親から、この肉体をいただきました。それがすべてでした。そのこと

だけがすべてでした。今、私は、そのことを、ようやく、心で気付く自分でございます。

二四、 \*\*\*さん、どうぞ、あなたの今の思いを語ってみてください。

私は、\*\*\*\*です。田池留吉、田池先生、長く、長く学んでまいりました。心を見なさいと言われてきたことが、私には、全く響いてきませんでした。そして、今、私は、自分の中を、ようやく、少しですが、見ようとしております。私の心の中に、すべてがあっただんですね。だから、あなたは、あなたの心を見なさいと伝えてくれたんですね。

そのことに、少し触れさせていただきました。嬉しいです。ありがとうございます。

二五、 \*\*\*さん、心を語ってください。

私は、\*\*\*\*です。肉は忙しく動いています。心の苦しみ、自分の心に感じるけれども、

肉は忙しい。もう少し、セーブしなければならぬと思っています。

もう少し、仕事をセーブして、自分とじっくり向き合う時間を作っていかなければならない。そのような思いがあるけれど、しかし、その一方で、まだまだ私には、しなければならぬことがある。そうやって自分を動かしているエネルギーを感じます。

私は、この仕事が好きなんです。そう、好きなんだと思います。

私には、あまり野心はないと思います。ただこの仕事が好きなんだと思います。この仕事をしながら、そして、真実の道を歩いていけたならと、私は、思っています。

でも、その時間が、自分が思っているほど、残されていないことに、私自身、まだ気付いておりません。

私は、まだまだ、甘くとらえています。自分が培ってきた世界のすごさを甘くとらえています。セミナーの現象の時間に、自分を感じさせていたたくチャンスに恵まれています。

それを、私は、十分に活かしているとは言い難いものがあります。

周りを見渡せば、色々なことがあるけれど、何となく、以前よりは落ち着いているような気がします。

しかし、そういうものじゃないんですね。自分のこの学びに対する姿勢、学びのとらえ方、ホームページに目を通すたびに、私の心に伝わってくるのは、その違いが、まざまざと感じら

れることです。すごいなあと思います。

ただ、その思いを、私は、横目で見ながら、それでも、まだまだ自分と真向かいになっていけない自分がある、それが私の苦しみでございます。

二六、 \*\*\*\*さん、今、あなたは、いかがお過ごしでしょうか。お元気ですか。

私は、\*\*\*\*です。私の心は、寂しくてどうしようもありません。ホームページをみます。ああでも、私の中の寂しさをどうすることもできない。ホームページでそれを紛らわせようとしています。ホームページを見て、田池先生を思って、セミナーの人達を思って、でも、私の心の中の寂しさはどうすることもできません。

\*\*\*\*さん、お母さんを、どのように思ってきましたか。そして、お父さんについてはどうでしょうか。

私は母を、ああそう、母のことは、自分の中では、そんなに嫌っているとは思っていません

んでした。でも、母を思うと、とても苦しい思いを感じます。私のために、色々尽くしてくれた母親なのに、私は、その肉の母親が大嫌いでした。私は、そんなこと、あなたに望んでいないのにと、私は、いつも母親に対して、その思いをぶつけてきました。私の求めてきたものは、そんなものではなかった。

父に対しては、もつとすごい心を使いました。何とわからずやの父親なのか。この父親がいるから、私は苦しいんだ。何ひとつ、自分でできないくせに、口が達者で、私のことを、何と思っているんだ。私は、父親が、疎ましくて疎ましくて、仕方がありませんでした。

ああ、自由になりたかった。何も干渉されずに、自分の生活を楽しみたかった。父親から逃げたかった。なぜ、お母さんは、こんな父親をおいて、なぜ、お母さんは、先に亡くなったのか。そんな思いで、父にぶつかっていききました。

私が、優しくしようとしても、お前の助けなど要らぬ。ピシヤリと断る父親に向かって、私は、それ以上のことはしたくなかった。誰がするものか。誰が、お前の手助けなんかしてやるか。その思いで、私は、ずってやってきたんです。

二七、 \*\*\*さん、あなたは、○○○○で講師をされていたようですが、その時の思いを

振り返っておられますか。あなたは、あなたの心を見ておられますか。

私は、\*\*\*でございます。己偉い私の心はそのままです。講師なんて、チヨロイものなんですよ。全部、頭で理解して、言葉をスラスラ口から言えば、あの世界では、講師という肩書きがつくんです。私の頭で理解した世界でした。

私は、心を見ておりません。私の心の中のアマテラスは、そんなところではございませんでした。私が○○○○で求めてきたアマテラスの世界どころでは、ございませんでした。

私は、いい気になっていたんです。みんなから、ちやほやされるのが好きです。己を表すのが好きです。\*\*\*さん、あなたは立派ね、そう思われるのが、何よりも私の幸せでした。

あなたの心の中に、色々な思いが詰まっていると思います。綺麗に装っていても、あなたの心の中は、ヘドロのような塊がいまだに、たくさんたくさん詰まっている。そのことを、あなたは、どのように感じておられますか。

見たくない、見たくない、見たくない。私の心は、そのように叫んでいます。田池留吉に反発する心は、その思いからです。

私は、ああそう、なぜこんなに反発するのか、自分でも不思議だったんです。反発するのに、なぜ、セミナーに参加するのか。参加しても、自分のエネルギーを、むごたらしいエネルギーを、自分に見せているだけなのに。

なのに、なぜ、セミナーに参加してきたのか。そのところが、私には、よく分からなかった。あなたは、このままで、肉を終えていっていいのでしょうか。

肉の喜び、肉の幸せ、それを、あなたは、まだまだ心で追い求められています。心の中の寂しさ、苦しさ、そして、すさまじい思い、何ひとつ、あなたの中で、解決されていないのではないのでしょうか。

二八、\*\*\*さん、いかがお過ごしでしょうか。

私は、\*\*\*でございます。アマテラスの心を抱えながら、私は、ずっと転生をしてきたことを感じています。

母の肉を通して、私の間違いを見させていただいています。

私達と繋がりがある\*\*\*さんご夫妻、その他の人達、そう、私達は、同じでした。同じ苦しみを抱えた意識だったのです。

アマテラスにひれ伏してきた意識、アマテラスを神として奉ってきた意識、その意識が、転生を重ね、今世、このように、日本の国で、肉体を持ち、そして、学びに集えたのですね。

はい、私の心の中にも、そのように感じられる。でも、私は、そこから、もう一歩が踏み出せない。やはり、アマテラスにひれ伏す自分があります。アマテラスは、素晴らしきものとして崇め奉る自分の心があります。

アマテラスは美しい、そんな思いを、心に抱えています。

二九、\*\*\*さん、いかがお過ごしでしょうか。

我一番の思いを、少しは、自分で見つめられていますでしょうか。

私は、\*\*\*です。占いババアの名の通り、私は、過去よりずっと、神の声を聞く者として、この身を誇ってまいりました。

今世の私の肉を通して、自分のエネルギーのすごさを、日々の生活の中で感じています。



すべてを牛耳っているエネルギーでございます。私の肉体細胞が、それを知らせてくれました。すべてを牛耳るエネルギーに、あなたは、がんじがらめですよ。心は、このようにがんじがらめですよ。私の肉体細胞を通して、私に、それを伝えてくれました。

心は、頑なになっていたのですね。今、あの時の自分の心を振り返ると、少しは、その心がほじめていつているような気がします。

しかし、私は、やはり、我一番の思いを、まだまだ心に抱えております。そのエネルギーが、この肉体を動かします。

三〇、\*\*\*さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

はい、私は、\*\*\*です。間違ってきました。間違ってきました。

どれだけ己が偉かったか、私ひとりが、そびえ立っていたんです。家族の中で、私がひとり、そびえ立っていました。

すべてを蹴散らして、生活をしてきました。それが、こんなにも、こんなにも苦しい思いだったなんて、私は、ほんの今の今まで気付きもしませんでした。

田池留吉に齒向かうエネルギーを、何度も何度も出させていただきました。何度出そうが、私の心の中に返ってくる思いは、苦しみだけでした。

はい、それは、私の心の向け先が違っていたからです。

己を誇る方向に心を使い、田池留吉より素晴らしい私になってやる。あんな、じじいになんか負けるものか。そのように、私は、自分のエネルギーを出していたのに、それに気付かず、長い年月やってきました。

そう、それは、いつ頃からでしょうか。私は、自分の心に伝わってくる思いを、感じたんです。何のきっかけなのか、分かりません。

でも、ある日、ふと、私は、何も分かっていない。私は、自分が間違っていることすら気が付いていない。ふと、自分に言ってくれる自分があったんです。

その自分に、心に向けてみました。そして、私は、セミナーに参加してみました。驚きました。全く違ったふうに、セミナーが感じられたんです。

心にどんどんどんどん入ってくるんです。

\*\*\*さん、私は、塩川香世と言います。あなたは、私に対して、どのような思いを持っていましたか。そして、今は、どうでしょうか。

私は、はい、やはり、心の中で、あなたに反発をしておりました。

私の中で、どうしても、あなたを受け入れられない部分がありました。

ホームページも本も、私の心から反発の思いが出てくるのが分かるんです。そんな私ですが、私は、あなたを見たときに、とても嬉しい思いを感じたときがございます。

自分が間違っていた、間違っていた。間違ってきたのは、自分だった。

私は、すべてをあなたのせいにしてまいりました。

お前がそこにいるから、私は苦しいんだ。お前の存在は、私を苦しめる。

そのように、私は、思ってきたんです。

でも、違いました。

私の思いを、あなたは、よかったねって、手を差し伸べてくれたのです。

目を見ました。嬉しかった。私とあなたとは同じですよ。私も間違い続けてきました。あなたも間違い続けてきましたね。でも、今、嬉しいでしょう。私も嬉しいです。そんな思いが、どんどんどんどん、私の心に、響いてくるんです。ただただ、よかったね、嬉しい、ありがとう、そんな思いだけでした。

私は、私の前に、自分で壁を作っていただけだと知りました。

その壁が、消えていくにしたがって、私は嬉しさを増しています。

ほんの少し、壁がなくなっただけで、私の心は、こんなに嬉しいって叫んでいます。今、私は、何気ない毎日の中で、自分のエネルギーを確認して、そう、一日、一日を過ごしております。

三一、\*\*\*さん、お身体の調子はどうでしょうか。

私は、\*\*\*と言います。日によって、私の気持ちと言いますか、心は、色々です。心が落ち込むときがあります。心が不安なときがあります。

自分の心が不安なときがありました。私は、その時、必死になって、自分を見つめようと思いました。私の中に上がってくる思いは、己の偉い私ばかりでございました。己が偉い、偉い、偉い、偉いつて、出てくるんです。

この己の偉い私は、苦しんでいる自分を優しく抱き止めてあげるといことが、できませんでした。だから、私は、苦しくなっただけです。

私が私を苦しめていった、そのことを今、感じています。

今は、その時に比べると、頻度が少なくなっていますが、日によって、色々なものを見た

り聞いたりしたときに、私の心は、すうつと落ちていくのが分かります。ですが、私は、まだこの肉を取り繕っております。体裁を整えようとしています。

肉の生活に波風は立てたくない、今の肉の生活を継続させたい、そのような思いでいます。

\*\*\*さん、心をタイケトメキチに向けてください。

はい、タイケトメキチ、タイケトメキチ。

ああ、とても、とても、とても、とても苦しい思いを感じます。私の醜い姿が浮かんでくるんです。

醜い私の心が、私の中に浮かんできます。

お前は、今は、高貴な生まれの者だと思っているが、お前の心の世界はそれどころじゃない。私は、いつもそのように伝えているじゃないか。私を救え。私を何とかしろ。今のお前が、安泰ならば、それでいい、何てことを言うんだ。私はこんなに苦しんでいる。こんなに苦しんでいる私をどうかしろ。

この声が、私の中に聞こえてくる。私は、それを、以前は、必死で押さえようとしてました。何も聞きたくない、何も語ってくるな、そのような思いでいました。今は少しですが、そのほ

うに思いを向けようとします。でも私には、まだまだそうすると、苦しくなって、收拾がつかなくなつて、そういう不安が、恐怖が、まだまだ心の中に残っています。

\*\*\*さん、しかし、あなたには、学びをともに進めているご主人がついておられるではないですか。あなた達ご夫婦の間で、この学びについて、心の底から話されたことがありますか。

ああ、私は、主人に甘えたくても甘えられない、心の底から甘えられない、そんな心を抱えています。それが私の苦しみです。

やはり学びについても、私は、自分を取り繕いながら、主人と接していると思います。学びのことについても、そのような態度で主人と接していると思います。

\*\*\*さん、ご主人のほうに心を向けてください。

あなたは、ご主人に対して、心をもう少し開いて、接していつてください。ご主人は、あなたの苦しい心を、受け止めてくれる人だと思えます。ただ、肉のご主人は、少し戸惑われる

と思います。でも、あなたが、心の底から、自分の苦しい思いを、ご主人に話されたら、あなたの言葉で話されたら、ご主人は、それを、時間がかかるかもしれないませんが、受け入れて、そして、ともに歩まれる方だと思います。

三三、\*\*\*さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、\*\*\*でございます。

会いたくて、会いたくて、会いたくて、会いたくて、会いたくて、ようやく、私は、この学びに集えているんですね。自分を探してきました。

しかし、私の心の中は、その自分というものが分からなくて、だから、それを教えてくれる方向へ、心を向けてきました。

パワーです。パワーが大好きでございました。自分には、計り知れないパワーがこの中にある、そう、私は信じて、そのパワーを探求してきました。しかし、私は、自分の心に響いてくる思いを、このパワーで、押さえ込もうとしました。それが私の、そもそもの間違いだったのです。

自分を自分で受け止める、そのことができる、それが本来の私だった、そういうことに、初めて触れさせていただきました。

心に積もりに積もったパワーを求める思い、それはなかなか、自分の中から拭い去るといふことは、難しいですが、ようやく、私は、自分を探す手立てを、肉で知ったのですね。今は、そう思っています。

奥さんは、お元気でしょうか。

彼女に、私のできる限りの優しさで、接しようとしています。前は、彼女の思いを感じるたびに、少々邪険に扱ってきた自分がございました。

今は、できるだけ、彼女の思いのほうに心を向けて、そして、いっしょにといい思いを広げていっています。その努力は、自分でしているつもりです。彼女が、それをどのように受け取ってくれているか、それは、よく分かりませんが、でも、私は、その努力をしています。

三三三、\*\*\*さん、どうでしょう。娘婿さんと、心を開いて、話を進めていこうと、そ



ういうふうに、進んでいますでしょうか。

はい、私は、\*\*\*\*です。己の偉かった私に、優しい娘と娘婿、そして孫、私は、心を見させていただいています。

すべてを蹴散らしてきた私なのに、この子達は、私の思いを汲んでくれていました。私だけが、家で、大暴れしてたんですね。

そうですね。私の苦しかった思いを、少しずつですが、いっしょに聞いてもらおうと思います。普段の何気ない会話の中で、私は、自分がいかに愚かであったか、いかに高慢ちきであったか、そんな自分を、昔話を通して、私は、私の心を聞いてほしいと思いました。

\*\*\*\*さん、そうですね。あなたもチャネラーです。これからお勉強しましょうとか、そういうのではなくて、あなたの心に、ふっと伝わってきたものを、娘さんやそのご主人に、何気ない会話の中で、話をされていくことを、私はあなたに、言いました。

はい、そのように伝えられました。嬉しかったです。心を開きなさい、心を開いて、みんないっしょだったよ、みんないっしょなのよ、そのように、親子仲良く暮らしていくことを勧め

められました。とても優しい思いを感じさせていただきました。

十月のセミナーに初めて来られたあなた、心の苦しさを語ってみてください。

はい、何もかも苦しかったです。何もかも、思い通りにいかないことが苦しかったです。自分はバカにされている、人から見れば、たわいもないことでしたが、私は、私の心を見ることをしてこなかったから、たわいもないことに、私の心は、引つかかっていきました。そして、自分の心を苦しい方向に陥れていったんです。

そちらのほうに、どんどんどんどん思いを向けていけば、私の心は、どんどんどんどん苦しい方向に行ってしまう。

心が苦しければ、身体も苦しくなります。身体が重く感じます。身体が重く感じ、朝がなかなか起きられない。何もかも嫌になる。話すのさえ、しゃべることすら、嫌になる。妻の顔も見たくない。話かけられることも、うっとうしくなる。子供にも辛くあたってしまう。そんな私が、また嫌になりました。

藁をもすがる思いで、セミナーに行きました。心が苦しいと言われました。その通りでございました。その苦しみは、どこからくるのか、あなたは、あなたの心を見てくださいと、同

時に、伝えられました。

肉の私には、よく分かりませんでした。私の心に、そのように伝わってきた。その思いが、これから、私は、私の家族、そして、お母さんといっしょに、少しずつ、ほどこけていくような気がします。

三四、\*\*\*さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、\*\*\*です。己が一番のエネルギーを流しています。家の中で、私は一番です。私に逆らう者は、すべてすべて、私は切り捨ててきました。そんな波動を流し続けてきました。形は、いい妻を演じ、いい母親を演じ、そうしてきたつもりです。

しかし、私には、夫や子供から返ってくるものは、私の思いは苦しいでした。それは、色々な形で返ってくるんです。

それを、私は、受け入れられない。私は、あなた方のことをこれだけ思つて、一生懸命やってきましたのに、あなた方から返ってくるものを、私は、受け入れられませんでした。

そして、私は、ようやく、この学びに繋がりました。

自分の心を見るんですよ。家族の人達から、あなたの周りの人達から、ただ自分の心を見るんですよ。そう、私は、聞きました。セミナー会場でも、色々な人の現象を見させていただけきました。

その通りだ、その通りだ、私も、あの通りだ、そう思う私があります。セミナー会場に、この身体を運ぶのは、とても嬉しいと思いました。

自分だと、肉の私は認められないのに、私の心は、嬉しいって、私は言っています。それを、私は、肉が自分だとする思いで、なかなか信じられません。でも、私の心の中は、嬉しいって叫んでいます。

肉の私を崩していく、己が偉い私を崩していく、そうすれば、中の私が出すんですね。今、そのように思います。

あなたは、ご主人の言われることに、「はい」と素直に返事をしたことがありますか。

おそらく、あなたは、自分の都合のいいときは、「はい」と言えるかもしれませんが、それ以外は、ご主人に、逆らって、逆らって、逆らってきたと思います。確かに、ご主人も、自分の心を見ていない。だから、己というものを知りません。自分というものを知りません。

しかし、あなたは、今世、この学びに繋がったのです。あなたから、まず、自分の心を見て、

そして、ご主人に「はい」と、本当に心から言えるあなたになってください。

「はい」と素直に言えるあなたになっていけば、あなたは、分かってきます。

自分がどれほど、己が偉かったか、そして、周りみんな、自分にとっても必要なことだったということが、分かってきます。

それが、あなたが、今、家族を持っている大きな理由です。

人は、ひとりでは生きられない。そうです。周りの人によって、自分を見させていただけ  
るあなたは、とても幸せなはずですよ。

そのあなたに、早く出会っていつてください。

三五、 \*\*\*\*さん、あなたを語ってみてください。

私は、\*\*\*\*でございます。間違った、間違った道を歩いてきたんですね。他力の道は  
間違いでございました。

私は、自分を立派にしたかったです。正しい人間とはどういう人間だろうか、私は、そ  
れを他力の中に求めてきました。

もちろん、私は、仕事上のこともあります。生活を安定させるために、そのために、お付き合いで他力をしてきた、そういうこともございました。

しかし、私の中は、自分の生き方を、他力の中に求めてきました。他力信仰の中に求めてきました。

だから、私は、長い間、私のやってきた他力というものが、どうして間違いなのか、自分の中で、よく分かりませんでした。

正しい教えなのに、どうして間違っているんだろうか、そのことばかりの繰り返しでした。

しかし、私は、母に使った思いを振り返り、他力信仰に使った思いを振り返り、瞑想をして、私が、私に冷たかったことを知りました。

肉を自分だとする思いは、果てしなく真つ黒ですが、何よりも、とても冷たい思いだったんです。それを、私の心は、今世、ほんの少し感じさせていただきました。

あなたは、今のお母さん、年老いたお母さんを見て、どのように今、思っていますか。

母は年がいきました。しっかりとした母親だった。そして、頑固な母親でした。私は、その母親から、自分の心を見させていただきました。あの母親は、私でございました。母は、年

を取っています。身体も自由ではありません。しかし、心の中は、しつかりしています。頑固です。それを、あの母親は、私に、今の私に、年若い母親は、教えてくれました。すごいと思いました。母の心つてすごいと思いました。

三六、\*\*\*さん、あなたの心は、他力のエネルギーにがんじがらめということ、あなた自身、どれほど感じていますか。

私は、\*\*\*です。私の頭のとっぺんから足の先まで、他力どっぶりの中にあると、あなたは言われるんですね。

私もそのように思います。自分が身動きできない中に、すっぱりと納まっているような、そんな気がします。

心が寂しかった、寂しかった。今もとても寂しいです。

奈落の底にいるような気がします。でも、私は、その自分をずっと紛らわしてきたと語りました。自分なりに、自分のエネルギーを感じ、自分なりにやってきたけれど、私は、他力の中から、まだまだ自分は抜け出していくことができないでいる、今、私は、そんな状態です。

## 異語。

他力の中にどっぶりの自分から抜け出すには、まさに、あなた自身にかかっていますが、私は、ここで、あなたに、ひとつだけ、言わせていただきます。

あなたは、一度、この学びから心を離されたことがありますね。

その時の自分の思いを、しっかりと振り返りましたか。そこに、あなたのこれからの反省に繋いでいくポイントがあると思います。

この学びから心を離れたあなたのその時の思い、どうぞ、自分で振り返ってみてください。すごいエネルギーですよ。己一番、それどころではありません。それが、あなたが、ずっと心に詰め込んできた他力のエネルギーでございます。今世、そのエネルギーを、少しでも、自分の中から解放そう、あなたも、そうやって、自分に肉体を用意しました。

お母さんの思いを、感じてみてください。あなたの心は、敏感なはず。そして、あなたには、たっぷりの時間があるではないですか。その時間を、自分に向けて、過ごしてください。私は、そのように、あなたにお伝えしたいと思います。



三七、\*\*\*さん、自分の心の中に溜め込んできた己の偉いあなたを、今、どのように思っていますか。

田池留吉、田池留吉、寂しいから田池留吉を求めてきた。寂しいから田池留吉を求めてきた。悔しいけれど、田池留吉、そうやって呼ぶ私の心に、寂しかった、寂しかった、悔しいけれど寂しかった、そんな思いが渦巻いています。

私は、己を誇ってきました。自分の霊道を誇ってきました。自分は、心を感じるすごいやつだ、そういうふうには、自分を誇ってきました。確かに、心に、ピンピン響きます。その響く自身を誇ってきた、私は、今、そのように感じています。

異語。

私は、あなたの娘さんに心を向けさせていただきました。とても、素直な方だと思いました。しっかりと、あなた方ご夫婦の姿を見て、そして、セミナー会場で、自分の目や耳を通して得たものを、自分のこれから先に、おそらく、彼女は、役立てていけると思っています。

娘さんに、思いを向けてごらん下さい。あなたの心が敏感ならば、自分の娘という枠を外して、意識と意識の中で、思いを向けていってください。

素直な彼女の思いが、伝わってくると思います。

三八、\*\*\*さん、あなたは、この学びと、そして、あなたが心に入れてきた他力信仰○○○○、その違いを、本当に心で分かかっておられますか。

私は、\*\*\*でございます。

はい、はつきりと、そのように言われたら、私の中で、その境界がぼやけているような気がします。

頭では理解しています。田池先生が伝えてくださった学びは、○○○○とは違う、田池先生が言われているのは、意識の世界、それは、私は、頭では、理解しています。肉は理解していません。

でも、心の中、私の意識の世界は、その境界が、まだまだあやふやでございます。ということは、私は、自分の中で意識の転回が、まだまだ揃っていないのですね。今、そのような感じ

ます。

肉は、意識の転回がすべてだとすることは、理解しています。意識の転回が捗らなければ、何も分からないということも、理解しています。

私には、もう少し時間が必要なでしょう。

異語。

そうですね、人それぞれの歩み方があります。焦らずにたゆまずに、自分に真摯な思いで生き続けていく、その優しさ、その素晴らしさを、肉でも知るといことは、とても大切なことだと思います。

本当に、今まで間違った道を歩いてきた私達にとって、焦らずにたゆまずに、自分に真摯な思いで、自分を見つめていく、このことを、肉を通して知る、それが、どれだけすごいことなのかと、今、私は、そのように思います。

異語。

三九、 \*\*\*\*さん、今のあなたの思いを語ってみてください。

私は、\*\*\*\*です。私の身体は、どうなっているのでしょうか。私は、不安で、不安で仕方がありません。こんなはずじゃなかった、こんなはずじゃなかった。私は、まだまだ、自分の心を見る時間が残されていると思っております。

私は、今とても残念です。心を、まだまだどこに向けているのかさえ、私は、はっきり分からないうです。お母さんを思って、私は、瞑想をしてみました。ああ、しかし、己の偉い私を、まだまだしっかりと心に蓄えております。心が苦しい、心が苦しいです。自分のこれからを思うとき、心が苦しいです。

異語。

\*\*\*\*さん、あなたの心の底を覗いてみてください。心の底の底を覗いてみてください。

はい、私は、死にたくない、死にたくない、まだまだ死にたくない。この思いが心に充満

しています。母を見送りました。私は、母を見送った。その死に様を私は見てきました。人間の心の世界はすごいなあと思えました。あんな年老いた母親なのに、もう、身体も自由に動かせない母親なのに、私は、まだまだこの身体に執着しているという思いを感じてきました。そうですね。人間は、年を取っても、いくら年を取っても、肉体に執着する思いを捨てきれずにいる、私は、そのことを、感じてきました、それが私の母を見送ったときの感想でございます。

肉に執着する思いがどれほど強いのか、私は、今、心に感じています。

異語。

田池留吉に心向けなさい。田池留吉を思いなさい、思っごらん。優しい、優しいあなたを思ってください。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、こんな真つ黒な私をお母さんは、受け入れてくれた。私は私を受け入れることなく、今までやってきました。愚かな私でございました。申し訳ございません。申し訳ございません。

四〇、\*\*\*さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、\*\*\*でございます。真つ暗な、真つ暗な私がありました。

私は、この中でずっと存在してきたんですね。今世、私は、この肉体をいただき、そして、自分の今までを振り返ってみて、私は本当に自分に冷たかったと思っています。

私は、心を語ることはなかった、いつも、いつも自分を押さえ込んできました。自分をないがしろにしてきたんですね。自分に自分が冷たくて、とてもかわいそうだと思います。

私は、主人が怖かった。怖くて、怖くて、主人の顔色ばかりを窺っております。数え切れないほど、主人を殺してきた自分を、今、振り返っています。

どうして、私は、あんなやつと結婚したのだろうか。私の中に、その思いが、何度も何度も響いてきました。でも、私は、自分を振り返る今、私の世界は真つ黒だった、それを主人は、ああいう形で示してくれたんだ、今、私は、そのように思っています。

異語。

\*\*\*\*さん、心をお母さんに向けることを、あなたの中で、どんどんどんやっていってください。形は、どうだつていいんです。あなたの心が、嬉しいつて、素直にお母さん、ありがとうつて、言えたら、それであなたの人生は、丸なんです。ご主人は、ご主人で自分の心を見る、その時間を自分で用意しています。

あなたは、あなたの心を救う、あなた自身を自分の中で救つていく、ご主人の世話をしながら、ただあなたは、あなたとの中で進んでいってください。優しい自分に帰ろう、特にそう思わなくていいんです。ただ、あなたは、時間を見つけては、お母さんを思い、あなたの中の優しさに出会つていってください。ご主人は、それを、心で感じていかれると思います。

どちらがどうだ、そうではありません。みんな、みんな、間違つてきました。

四一、\*\*\*\*さん、心を語りなさい。あなたの心を語ってください。

私は、\*\*\*\*でございます。心をタイケトメキチ、アルバートに向けること、私は、ずっとずっと、その喜びの中に存在していたのですね。

あまりにも己が偉かったです。肉にとらわれていました。肉の私にとらわれていました。私の学び方は、とても甘かったです。何度も、何度も、よろめき、挫けくじそうになりました。それでも、今に至っています。

今の時間に至っています。私に気付きなさいと伝えてくれている優しさ、私は、この優しさを、己偉い私が、すべて、遮ってきたのですね。

どうしてこんなに、己が偉くなったのだろうか。私は、ずっとそのように思っております。瞑想を続けています。瞑想を続けていく中で、私は私の中に、本当の温もりを、取り戻していけると思っています。

比べることをやめていきます。それは、自分が自分に冷たい、自分を落とし込めていくだけだったんですね。己の偉い私は、どうしても、その心癖が出てしまいます。もう、そんな自分はやめていこうと、今、思っています。

異語。

\*\*\*さん、私は、あなたのことを憶えていますよ。私が、初めてこの学びの門を叩いたときに、最初に出会った人です。その繋がりもあります。思います。



私は、あなたに伝えたい。

きちんと、自分の予定された道を歩いていってください。

私が、最初に出会った人に、贈る言葉は、それでございます。

あなたの道を、きちんと歩んでいっていただきたい、そのように思います。

四二、\*\*\*さん、お元気でしょうか。あなたは、あなたの心を見ておられますか。

私は、\*\*\*です。私は、肉に忙しい。肉、肉、肉の毎日でございます。私の心を見ているかですか。はい、私は、自分の心を見ているようで見ていない、そう、今、そのように感じます。

あなたは、あなたの心を見えますかと、ストレートに尋ねられたときに、私は、私の心は、どちらを向いているのかさえ、今、分からない状態でございます。

異語。

\*\*\*さん、あなたのご主人は、どうでしょうか。あなたから見ても、ご主人は変わってこられたと思いますか。

はい、主人は、何やら一生懸命に、いつもやっております。主人は一生懸命にやっている、それが、主人の変わったところだと思っています。

前は、色々、ブツブツ言っておりましたが、今は、ブツブツが少しずつ、少しずつ、小さくなっているような気がします。

異語。

あなた方ご夫妻は、チャネラーを追い求めてこられました。その時、その時の、チャネラーに、心に向けてこられました。心に入れてきたチャネラーの反省をしてください。

なぜ、心に入れたのか、そういうところを、うやむやにしては、どれだけ心に感じようとも、所詮は肉の次元でございます。長く学んでこられました。どうぞ、肉の忙しいとか、どうだとかは、もうやめにして、自分の時間を大切にしていってください。

原点に戻ってください。もっともっと、自分の原点を見つめていってください。

四三、\*\*\*さん、心を田池留吉に向けて、あなたの今の思いを聞かせてください。

私は、\*\*\*と言います。どうやら、私の今の状況は、とても厳しいようですね。

私は、心をもっと語りたかった。お母さんに、私の心をもっと語りたかった。お母さんに、私の思いをもっと聞いてほしかった。

私は、だから、母を看取りました。私の思いを、母に聞いてほしいから、母との時間を大切にしました。

母は、肉の母は、身体が不自由でも、私は死んでいくのがとても怖いと、肉の母から伝わってきました。ただ、私は、その思いを、聞いてあげるしかありませんでした。自分の中で、今ひとつ、確信がなかったからです。私の肉の心は、一生懸命に学びを進めようとはしましたが、私の意識の世界、とても苦しい。その心の苦しさを、まだまだ、私は、自分で広げていくことができませんでした。すべて、肉の己が立ち塞がり、肉の己が偉かったからです。心を、語りたかった。その思いが広がっています。

異語。

四四、\*\*\*さん、私は、塩川香世と言います。あなたは、ずっと以前に、たくさんの人達を集めて、あなたの感じている世界を、色々と伝えられたそうですが、今、あなたは、あなたの心の世界は、どのような世界なのでしょうか。

私は、\*\*\*でございます。心の中の思いを吐き出すことを、私はしておりません。心に感じるところがございました。心に響くものがあります。

私は、見える、聞こえる、話せる、そのように、己を誇ってきました。

色々な相談を受け、そして、私が心に感じていることを話しているうちに、自分の中から聞こえてくる声がありました。

人を導いていきなさい。あなたのすごい力を、人のために役立てるのです。私は、そのように、心の中から、聞こえてきました。その声に従って、私は、たくさんの人達に伝えました。

異語。

私は、その当時、あなたと出会ったこともありません。あなたが、たくさんの人に伝えたというその内容も知りません。ですが、あなたの意識を、感じる。あなたの波動を感じる。あなたの心の世界は、とても、とても、人に優しさや温もりを伝えるどころではありません。

あなたの心は、たとえようもないほど、暗く打ち沈んでいます。そのあなた自身を感じていつてください。

異語。

私は、\*\*\*\*、\*\*\*\*、\*\*\*\*でございます。心の中に伝わってくる思い、私を救え、救え、救え、救え、救え。私は、救え、救え、救え、そのような思いを感じます。底なし沼のように、どこまでも、どこまでも、どこまでも、暗黒の世界が広がっていく。こんな中で、私は、どうやればいいのでしょうか。どうすればいいのでしょうか。

あなたが、まだ自分の身体が自由に動き、そして、その今、心に感じたあなた自身を、本当にどうすればいいのかと思うならば、あなたは、あなたを生んでくださったお母さんの反省

をしてください。

お母さんの反省です。あなたを今世、生んでくださった肉のお母さんに使ってきた思いを、広げていってください。どんな思いを使われたか、あなたは、その底なしの不安の中から、お母さんに肉体をいただきました。

そのことに、あなた自身、心で気付かなければ、あなたは、また、今の肉体を終えて、その世界に戻ってまいります。

異語。

\*\*\*さん、田池留吉という方を憶えておられますね。その方を少し、あなたの中で振り返ってみてください。思ってください。

私は、田池留吉を知っています。あの方を知っています。あの方に、私は、言ったんです。私は自分の思いを伝えました。私の心の中に、響いてくる思いを、あの方に伝えました。あの人は、私の出す思いを、受け取ってくれました。受け取ってくれたけれど、その後、私に、何も言ってくれなかった。私は、そう、あの人を、私のすごいことが理解できない人だと見下し

ました。私こそ、素晴らしい、私は、素晴らしい、私は、そのような思いで、あの人を見ました。そのような思いで見ると、何ともみすぼらしい姿に見えてくるのです。私は、だから、私の中から聞こえてくる思いに従い、みんなに伝えました。

異語。

あなたが伝えたものは、闇でございます。ブラックでございます。心を田池留吉に向けていってください。田池留吉とは、あなたが、今思い浮かべているその肉ではございません。田池留吉、その世界、その波動の世界を心で感じていってください。

異語。

私は、いわゆる、第一の危機というものを知りません。しかし、私は、思います。第一の危機は、皆さんが、それにかかわってきた人達は、それぞれが反省をされてこれだと思いますが、私は、思うに、第一の危機は、反省が進めば進むほど、その時にかかわった人達の中から、第一の危機の中心人物に、今の学びの姿を伝えようと、肉でなさるのではないのでしょうか。

その中心人物となる人が間違っていた、そういうことを言うというか、そういうことを、はつきりときせるのではなく、自分の中に、本当に第一の危機の反省が進んでいって、思いが上がつてくるのは、やはり、その当時のその人を思い、自分の今の思いを、心から伝えたいと、心から思うのではないのでしょうか。

確かに、この学びは、去る者追わず、です。しかし、もし、私だったら、自分が心に感じているものを、その人に、何らかの方法で伝えると思います。相手は、どのように受け取っていか分かりません。しかし、自分の思いを伝える、伝えようとする、私は、それをすると思います。

自分の心で感じたものが不動であればあるほど、その当時、自分がかかわった人にお伝えしたい、今の学びの姿をお伝えしたい、そのような思いになるのではないのでしょうか。

私は、今、語った思いは、己が偉いのかなあと自分に聞きました。

己の偉いところから、そういう思いが出てくるのかなあと、自分に問いました。

しかし、やはり、私は、もし自分だったら、今の私だったら、そういう行動を取るだろうと思います。自分の中で、そういうことをすることによって、自分なりに決着をつける、それが私のけじめの付け方だと感じています。



四五、\*\*\*さん、瞑想を続けていますか。

私は、\*\*\*\*です。瞑想をしようと思うと、自分の中から、何かしら胸騒ぎがします。ああ、これが、私の闇なんだなあ、そのように思います。ひとつ、ふたつ、丹田呼吸をして、しっかりと、タイケトメキチに、お母さんに、心を向けて、さあ瞑想をしましょう、私は、そのように、自分に言います。そして、その時間を持つようにしています。ああ、しかし、私は、自分の中の苦しさに目をつぶってきました。

色々な思いを感じました。色々な思いを感じ、そして、色々な反省をしてきました。確かに、私は、それをやってきました。

しかし、私は、本当に自分に言ってやりたい思いを、まだ見ていないという感じがします。自分は、何のために瞑想をして、何のために反省をしてきたのか、ああ、そうなんです。

私は、素晴らしい自分になりたかった。非の打ちどころがない自分に帰りたかった。はい、そうなんです。素晴らしい自分を目指して、反省をし、瞑想をしてきた。今、その思いを感じます。素晴らしい人なんていない。立派な人間なんていない。みんな、真っ黒だ。何度、そのことを耳にしてきたでしょうか。

しかし、私の中には、やはり、気高き私が、何か気高き私を探しているような自分があったんです。

気高き私、美しき私、そう、私は、この大きなそびえ立った壁を、自分の中で崩していかなければなりません。その方法、それを何か、私は、間違ってきたような気がします。

異語。

自分の中の壁は自分で取り除く、それが基本です。そして、そのためには、どのようにするののか。

方法はひとつです。本当の温もりに出会うことです。温もり…、一口に温もりと言っても、心で感じた紛れもない温もり、許し…。

それを心に感じれば、もう分かってきます。

分かりたいから…、そんな思いなど必要ありません。

お母さんの温もりは、どなたの心の中にも存在します。

そこに触れていくために、色々なことが、それぞれに起こってまいります。

すべては、そこに帰るためのものがございます。

四六、\*\*\*さん、あなたの己偉い心に向けて、そのあなたを感じていってください。

私は、\*\*\*でございます。田池留吉、田池留吉と思えば、とても心が苦しくなります。田池留吉、私の思いを、もっともっと、田池留吉に向けて…。はい、この心のままに、私は、今までやってまいりました。

田池留吉なんて、くそくらえ。田池留吉なんて、くそくらえ。  
私は、今も、そびえ立ちのままでございます。

その心で、私は、自分の中を見ております。自分の心の中を見ています。そびえ立った私が、その心で、自分の中を見ている。

はい、これでは、私は、いつまでたっても苦しいと思います。  
でも、やめられない、そびえ立ちの自分をやめられない私でございます。

異語。

\*\*\*\*さん、反省をするということは、立派なあなたを、そこに示すものではありません。反省する根本は、優しさでしょう。お母さんの優しさです。お母さんの温もりです。

お母さんの優しさを、お母さんの温もりを、あなたは、感じていますか。

その心を、あなたの苦しい心に向けていってください。

お母さんの温もりで、反省をしていってください。

お母さんの温もりを欠いてした反省なんて、どこまでいっても苦しいだけです。どこまでいっても己を表す反省でしかありません。

そのことに、早く、あなた自身が気付いていってください。

心で気付かなければ、どれだけ反省しようとも、どれだけ瞑想しようとも、それは、形だけでございます。

あなたは、ご主人に、どのような心で接していますか。お子さんに、どのような心で接していますか。それが、一番の目安です。

ご主人を愛しいと思いますか。心の底から愛しいと思いますか。お母さんの温もりを感じて、自分の中を反省していけば、ご主人、子供さん、愛しく感じられます。それがあなたの、何気ない態度に出てくるんです。

反省は、言葉じゃないです。反省は、立派な言葉を並べるのでもありません。そのことを、

私は、分かってほしいと思います。

四七、 ＊＊＊＊さん、いかがお過ごしでしょうか。あなたは、 ＊＊＊＊さんから電話をいただいて、CDが手許に届くようですが、その辺のところのあなたの思いを聞かせてください。

私は、 ＊＊＊＊です。懐かしい思いを感じました。田池先生と言われたとき、とても懐かしい思いを感じました。というのも、私は、今、とても、とても苦しい状況にございます。心の中の苦しさは、私の中を駆け巡っています。寂しい、寂しい思いを感じます。苦しい思いを感じます。どちらを向いても、寂しい、苦しい、寂しい、苦しい、その連続でございます。その中で、私は、 ＊＊＊＊さんから、お電話をいただきました。

とても、懐かしく思いました。田池先生、田池先生が懐かしい。

そう、懐かしい思いで、私にも送ってくださいと即座に、返事をさせていただきました。

異語。

あなたは、この学びを、今どのように思っていますか。どうして、あなたは、この学びを去ったのでしょうか。

私は、とても己が偉いんです。私の心の向け先は違っていました。

私は、意識を取れる。私は、立派なチャネラー。人の意識が分かる、心に感じるものがある、そのように、私は、己を誇ってまいりました。

しかし、私が感じてきたものは、肉でございました。肉でございました。肉の中から出られない私の心の中に響いてくるものは、肉、肉、肉でございます。だから、私は、本当のチャネラーではございません。

それが、とても、私には、認められなかった。

色々なものを感じ、言葉にはできるけれども、私は、本当の心を語れない。そのように感じてきました。

私は、自分の本当の心を語れないチャネラー。自分の苦しさを語れないチャネラー。そのように自分を落とし込めてまいりました。

異語。

今回のことは、ひとつのきつかけとはなりませんか。あなたの心を、今世、あなたの心を、もう一度、この学びのほうに向けられてはどうでしょうか。

難しいです。難しいです。私の肉での生活は、一応整っています。その肉の生活を、ご破算にして、この学びをしていこうという思いには、まだまだなれません。

四八、\*\*\*さん、あなたの友達である\*\*\*さんの今の状況を、あなたは、目にされました。あなたの今の心を語ってみてください。

私は、\*\*\*です。信じられません。信じられない。本当に人間の命って儂いものなんですね。つい、先日いっしょに出かけました。その時は、私の目には、少し疲れているのかなあと思っていましたが、まさか、彼がこんな病気になっていたなんて、私には、全く信じられません。

はい、その思いばかりで…。私は、その思いばかりを、自分の中で繰り返ししています。

\*\*\*\*さん、私が言うのはそういうことではありません。

あなたは、その中で、あなた自身、この学びについてのあなたの思いを語ってくださいと、私は言っているのです。

異語。

はい、私は、自分が全く何も学んでいなかったということを、痛感しております。田池留吉の示している方向を、私は、この心で、信じていると思ってきました。自分も自分なりにやっていると思ってきました。

でも、私は、全く信じていないことを痛感しました。

人間は意識、人間の本当の姿は目に見えないものだ、そのところを、私は、自分の中にもなかったということでした。

私は、肉、肉、肉。肉の私私だ。その思いがとても強いことを感じます。だから、私は、セミナーが少なくなるにつれて、自分がセミナーに行けない状況になるにつれて、肉でのその努力をしませんでした。



どうせ、自分には分からない、分からない、分からない。難しい、難しい、そうやって、私は、逃げてきました。

経済的にも、少し辛いところがあるのは、確かです。でも、私の中に、今世の自分を、もう少ししっかりと感じていたなら、私は、今、今とは違う形で、心をこの学びに向けていたと思います。

全く、私は、肉でございました。肉でございました。

異語。

\*\*\*さん、お母さんに心を向けていますか。瞑想をしていますか。あなたは、その肉体をいただいて、学びに集えたことを、今、本当に心で感じておられますか。

異語。

お袋を思います。お袋を思っています。苦しかった心を感じています。何一つ、自分の思いを満たすことがなかった母親に対して、私は、不平不満ばかりを言ってきました。母に対し

て、心の底から、ありがとうなんて、言えなかった自分を今、感じています。

心の底から、ありがとうなんて言えない私を感じている。ああ、これが、私の今でございます。これが、私の他力へ走る心でございました。

田池留吉、その教え、私には、ひとつの他力信仰に過ぎなかったことを、今感じます。

異語。

\*\*\*さん、あなたの今の状況を、あなたの心で感じられたと思います。どうぞ、ホームページを見て、そして、本を読んで、CDを聞いて、瞑想をして、本当に、一から学んでみてください。

あなたは、何のために生まれてきたのですか、何のために生まれてきたのですか。私は、学びの仲間として、あなたにお伝えします。

しっかりと、一から学んでみてください。心で学んでみてください。

四九、\*\*\*さん、どうぞ、あなたの今の思いを語ってみてください。

はい、私は、自分の心が苦しい悲鳴を上げていることを、全部全部押し隠して生きてきたのだなあと思います。そうです。私は、田池先生は好きです。信頼のできる方だと思つています。そして、この学びにも、抵抗はありません。しかし、その私が、なぜ、もう少し真面目に積極的になれないのか、自分に問うてみますと、私は、自分自身が恐ろしいのだと思います。自分の中にも、皆さんのようにたくさんさんのエネルギーが詰まっていることを、何となく感じます。感じますけれど、それを果たして、自分だと思えるのだろうか。もし、私が、あのようになれば、それが私だと思えるのだろうか。それが、私が、私を押しさえ込んだからなんですよ、私は、自分がとても怖いです。

怖いけれど、自分の中の何かを感じます。これが私の今の状態でございます。

異語。

あなたには、義理のお母さんとの生活があります。その人に対して、そして、奥さんに対して、どのような思いを広げてこられましたか。

ああ、そう言えば、私がこの学びを遠ざけていたのは、あのふたりがいたからだと思います。何やら嬉しそうに、家を空けるふたりを見てきました。私の心に響いてくるものは、相変わらずのものでございました。

だから、私は、自分からこの学びを遠ざけていたのだと、今、感じます。

すごいエネルギーでした。あのエネルギーが私なのかなあ、何度も何度も、そう思ってみました。きつとそうなんだろうなあと思います。

今、私のこの口から語るのには、躊躇されるようなものを感じてまいりました。

異語。

あなたは、ご自分の健康、身体に大変、気を使われていますが、やはり、あなたも、死ぬのは怖いですね。

はい、私は、自分の死を考えたくないというのが本音でございます。

どこか身体の調子が悪いと、私は、とてもそのところが気になります。

もう自分は年なのだから、身体のおちこちに、ガタがきて当然なんだ、そういう思いもあ

りますが、もしこれが、悪い病気だったら、私はどうしようか、その前にも何とか自分でできることはないだろうか、そうやって、私は、いつも自分の身体に、健康に気を使ってきました。用心してきました。ダメだと言われるものは、極力、口にしませんでした。そうやって、私は、自分なりに注意を払ってきました。

それでも、時間は経っていきます。私の身体は、その時間とともに、弱っていくのでしよう。今、私は、自分の死を、少しだけ思ってみようというところにあります。ああ、これは、私が、ようやくセミナー会場に、自分のこの肉体を、運んだからかなあと、今、思っています。

自分の死が怖かった。考えたくもなかった。でも、今、自分の死を、少し、心の隅に置いて、そして、私も、生まれてきてよかったって、ほんの少しでも言えて、死んでいけたらいいなあって、今、思っています。

五〇、\*\*\*さんのお兄さん、あなたは、十月のセミナーに初めて来られました。あなたの思いを語ってみてください。

はい、私は、私が知っている、生きてきた世界とは、全く違う世界があることを、私の心

は感じたのだと思います。

私は嬉しくて仕方がありません。弟は、今、大変な状態です。私は、その中でも、なぜか、その大変な状態の中でも、自分の心は、嬉しいっていう思いが上がってくるのです。

不謹慎かもしれませんが、弟が、自分のその状態を通して、まだ、この学びに触れていない私達兄弟に、そのことを何か告げているような、そんな気がしてなりません。

弟を、自分の弟だと見て、私は、ずっときました。

私は、この学びについて、何度か勧められましたが、私には、何もよく分からない状態でした。しかし、今、このような状態になって、そして、その前に、私は、セミナーに集えました。

セミナーの時間は、私にとつて、とても新鮮な時間でした。何という世界だ、何という世界だ、私は、そう感じました。

嬉しいなあ、嬉しいなあ、私は、よく分かりませんでした、そんな思いが自分の中から出てくるのを、知りました。

これが意識の世界というものなのでしょうか。私は、まだまだこの学びについて、何もしておりません。ただ、今は、弟の状態を気にしながら、そして、私は、自分がようやくここに辿り着いた、そのことを実感しているところでございます。

五一、\*\*\*さん、あなたは、ようやく、他力信仰への思いを語り始めたところでございますが、今のあなたの思いを聞かせてください。

私は、\*\*\*でございます。ああ、まだまだほんの上滑りの反省でしかない。私は、心を見るところを、本当におざなりにしてきました。

反省といっても、本当に上辺だけの反省しかできない自分です。

今、ああ、私は、本当に学びを真剣にやってこなかった自分を感じています。

\*\*\*さん、○○○○ですか。その時、あなたが使った心を、今、この場で語ってみてください。

異語。

私は、素晴らしい私になりたかったんです。金、金、金のために、それもありました。ああ、しかしその前に、私は、素晴らしい人間になりたかった。素晴らしい自分を、私は、見出した

かった。その思いがとても強かったです。

己一番の世界を、ずっとずっと過去より繰り広げてきました。だから、私は、やはり、パワーが欲しかった。素晴らしい自分を成り立たせるためには、神のパワーが欲しかった。神のパワーを求めてきた者でございます。

ああ、私の中には、他力の臭いが染み付いている。心の中に、びっしりと他力の思いが、こびりついている。

私は、肉の私は、まだまだそのことを甘く、甘くとらえています。

自分では他力の反省をし出した自分を、ああ、また誇りに思っているようなところがございませぬ。ああ、これで今日の反省は済んだ。私は、心は、タイケトメキチに向いている。密かにそのように思っています。

これは、私の他力の思いだということを、自分自身、まだ気付いておりませぬ。

異語。

あなたは、田池留吉と心に呼んだとき、どのような思いを感じますか。あなたの思いを語ってみてください。



はい、田池留吉、田池留吉。心で呼ぶ私の心の奥底には、まだまだ欲の思いが、ぎつしりとぎつしりと詰まっています。田池留吉を呼ぶ心の奥底には、欲の思いがある。私に素晴らしいパワーを授けてください。私にパワーを、パワーをください、ください、ください、その思いがあります。

私は、この心を、まだまだ自分の中で押し隠したままです。

田池留吉は素晴らしい、素晴らしい存在です。私の中では、素晴らしい存在、教祖、いいえ、もつともつと素晴らしい。

はい、私は、やはり、田池留吉を神として奉ってきました。

その思い、私が、過去より神を求めてきたその思いと、少しも変わっていないことを、私は、まだまだ、気付いておりません。

心の中にびつしりとこびりついた他力の思い。この思いは、とてもとても強いを感じます。今、自分のこの口から語る、私の心の中。他力、他力、他力でございます。

五二、\*\*\*さん、あなたは、今、治療として、何かあなたの中でやっておられるそうで

すが、あなたは、そのことについて、どう思っているのでしょうか。

私は、\*\*\*でございます。はい、私は、自分の中で、何かを感じているんです。私の心の声に従って、私は、その何かを今始めようとしています。

私は、色々と試しています。私は、この心の中に感じたものを試していこうとしています。私は、治療師です。私の中にも、本来のパワーがあると思います。そのパワーを、私は、自分の中で試していきたい。私は、ひとり立ちをしていきたい、そのように思っているんです。

\*\*\*さん、ひとり立ちと言いましたが、あなたは、本当に自分の中に、お母さんの温もりを感じておられるのでしょうか。

私は、あなたに意識を向けると、田池留吉に歯向かうエネルギーしか感じません。あなたの心の声というのは、私には、到底、お母さんの温もり、そのようなものではございません。ただただ、暗い、暗い真つ黒なエネルギーだということを感じますが、あなたは、このことを聞いてどうでしょうか。

私は、田池留吉を信じてきた、信じてやってきた。ああなのに、私のことを、田池留吉は、

認めなかった、それが、とても苦しかった。

私は、素晴らしい、私は素晴らしい。田池留吉、お前は、私のことを認めない。私は、やってきたよ。お前の言うことを聞いてやってきたよ。

だから、私は、自分なりにこれから、自分の道を歩いていく。自分の中にも、本来のパワーがあると云ったじゃないか。本来のパワーは素晴らしい。あなた方は、素晴らしいパワーの持ち主だと言ったじゃないか。

だから、私は、そのパワーを自分の中で、信じて、それを確かめようとしているんです。田池留吉に、ああ、私は、認めさせたかったです。

異語。

\*\*\*さん、今、あなたが語った言葉、思い、波動、私には、とても、とても、とても、とても、苦しく、苦しく感じられます。

私は、その道を、あなたは歩き始めたということを感じます。

あなたの行く手には、地獄の奥底が広がっているだけです。あなたは、その道を選んでいくのですか。選んでいった結果を、あなたは、あなた自身で感じ、あなた自身で知って、そし

て、それから、また、その道が間違いだったということを、知っていくのでしょうか。

それには、あまりにも厳しすぎる道だと思います。そうそう簡単に、Uターンはできない、そう、あなたの心が、そのように言っています。

あなたの本当の思いがあなたに伝えているんですよ。

Uターンはできない、もうUターンはできない、地獄の道をまっしぐらに進むあなたに、私達は…。

それでも、あなたがその道を行くなら…。それは、あなた自身が選ぶことだから…。  
そうですね。最後はあなた自身が、選ぶことなんです。

異語。

五三、\*\*\*さん、失礼ながら、私は、あなたのお名前は存じませんが、どうぞ、あなたの心を語ってください。

私は、自分が正しいと思って生きてきました。正しいと思って生きてきた、自分は、しっ

かり生きてきた、しつかりと人生を歩んできた、そう思ってきました。

両親の姿を見ってきました。そう、私は、ずっと、両親を見てきたんです。その両親が、最近とても幸せそうな雰囲気を感じて漂わしているのを感じました。

私は、両親がやっていることについては、ほとんど、その内容は何も知りませんでした、ずっと、私は、両親を見てきたんです。

本当に、両親は、変わったと思います。そして、私は、今、両親が学んできたこの学びに触れさせていただいています。

本を読みました。セミナー会場にも足を運びました。自分が正しいと思ってきましたが、私の人生、何だか、小さなものを感じられます。

私が守ろうとしてきたものは、何だったのか。一生懸命、頑張ってきたのは、何だったのだろうか。そういうことを、日々の生活で、ふつふつと感じています。

学びに触れさせていただいた、このことを大切にしていきたいと思えます。まだまだ自分の殻を突き破るといふわけにはいきませんが、これからの私の人生の中で、今、私の目を通し、耳を通し、知ったこの世界を、自分の中で、広げていきたいと思えます。

五四、\*\*\*さん、あなたも長く学んでこられましたね。今、あなたの学びの時間を振り返り、どうでしょうか。

私は、\*\*\*です。本当に長い間学ばせていただきました。

今、私は、自分を振り返り、自分の人生、色々ありましたが、そう、本当に色々ありましたが、やはり、自分の人生は幸せな人生だったと、今思っています。

自分を苦しめてきたのは、自分だった。私は、まだ、はっきりとそう心を感じていないけれど、ぼんやりとそうに思っています。

長く学ばせていただいたけれども、私は、はっきりと自分の心で感じられないところに、まだまだ私の不勉強があるということを感じます。

ああ、それは、私は、やはり、基盤が肉だからです。

間違っていた思いを広げているのは、分かるけれども、でも、でも、私は、私の基盤が肉だから、やはり、そこに、何か自分を正当化する思いを感じてしまうのです。そして、私は、やはり、自分を高く掲げていると思います。

幸せな時間をいただいて、幸せな人生を歩ませてもらっていると感じるけれども、その感じ方も、肉を基盤とするものだと思います。

私は、でも、それでもいいと思います。自分の人生は苦しかった、こんなだった、あんなだった、不平不満愚痴の中で、自分の人生を閉じていくのも、一生です。でも私は、やはり、お母さんに生んでもらってよかった、色々なことがあって、これから、まだまだ、自分の心を見ていく時間は、残されているかもしれないし、私自身、何かに躓くかもしれないけれども、それでも、自分の心を見ようとする自分に出会っていることが、今、私は、ただただ嬉しいと思います。

これが、今現在の自分自身の学びを振り返つての感想です。

いい格好をしても仕方ありません。私は、今の自分の状態を、自分で把握して、できるだけのことを自分にしてやりたいと思います。

異語。

\*\*\*さん、心を、お母さんのほうに向けてください。そして、タイケトメキチを、静かに、静かにタイケトメキチを思う時間を持つてください。

五五、\*\*\*さん、己一番、我一番のあなた自身を、瞑想の中で感じて、そのあなた自身を、お母さんの温もりで包んでいく作業をしてもらえるでしょうか。

はい、私の己一番は、すごいエネルギーです。すごいエネルギーだということを、今世、ほんの少し、セミナーに集わせていただいて、感じさせていただきました。

すごいエネルギーだけれど、嬉しいという思いが、心の底から湧いてきます。ああ、でも、私は、お母さんの温もりで、自分自身を包んでいく、そのことを、まだ充分にできない私があります。

心の底から、我一番、我一番なりの思いが、競り上がってくるのを感じます。その競り上がってきた思いに、お母さんの温もりを通して、伝えようとするけれども、やはり、競り上がってくる思いのほうに、まだまだ強いです。

はい、でも、今、少しずつ、少しずつ、そのような方向に行こうとしています。我一番、己一番、\*\*\*を誇ってまいりました。

お母さん、お母さん、申し訳ございません。

異語。



五六、\*\*\*さん、心をお母さんに向けて、あなたの心を素直に語ってみてください。

はい、母を思い、瞑想をしています。でも、自分の中に自分を閉ざす何かを感じる。私は、こうやって、自分の心を閉ざして生きてきた。寂しい中で、私は、ずっと存在してきたことを感じます。

お母さんに向けて瞑想をして、お母さんに向けて、自分の思いを語ろうとしても、自分で自分を押し留めるエネルギーを感じます。

とても苦しいエネルギーを感じます。ああ、出てくるな、出てくるな、出てくるな。私が、崩れるではないか。己一番の私が崩れるではないか。

そのような思いを、私は感じます。

異語。

\*\*\*さん。それでも、時間を作って、お母さんに向けて、瞑想をしていってください。

何もないあなたの心に向けて、ただただ瞑想をしていくのです。

あなたは、お母さんから生まれました。今のお母さんから生まれました。

生まれたばかりのあなたは、とても、とても、素直で、お母さん、ありがとう、ありがとう、ありがとう、その思いで、ずっと、ずっと、お母さんを見ていたんですよ。その頃のあなたを、思い出して、ただただ瞑想を続けていってください。

心にすごいエネルギーを感じる時があります。あなたの肉は、分からなくても、心の中に、すごいエネルギーを蓄えている自分を、自分で感じる時があります。それは、どういう形で現れるか分かりません。

もしかしたら、あなたは、何気ないときに、肉のお母さんに対して、自分では思いもしない言葉を吐き出すかもしれません。あるいは、あなたの兄弟に対して、そういうことをするかもしれません。でも、その時、あなたは、肉のあなたは驚かずに、そう、しっかりとそのエネルギーを心感じていってください。

それが、あなたが、ずっとずっと心に蓄えてきたエネルギーだということを、あなた自身は、感じるでしょう。

それは、いつやってくるか分かりません。心を、お母さんに向けて、何かを感じようとか、ああ今日もダメだったとか、そうではなくて、ただただ、お母さんを思っ、て、瞑想をしていっ

てください。

五七、 ＊＊＊＊さん、あなたの今の思いを、語ってみてください。

私は、 ＊＊＊＊でございます。この学びに繋がってよかった。ギリギリのところ、私は、この学びに繋がりました。

心を見るという学びに繋がったことを、私は、心で感謝しています。

私の人生の中で、今一番、幸せなときだと思います。自分を見るって、本当に、すごいことなんです。

私は、本当に、自分は正しい、正しいと思っ生きてきました。

自分の幸せは、この私を幸せにすること、それだけを考えてきました。

だから、私の心は、いつも、いつも置いてきぼりだったんです。だから、私は、何時まで経っても幸せになれなかったんです。

今、そのように、感じています。

母を、母を、私は……。ごめんなさい。母を思うとき、ごめんなさい、ごめんなさいという思いが、

広がっていきます。

一番大切なことを、教えてくれていた。私は、そのことを、今、母とともに生活をしながら、感じていきます。

毎日が大変だけど、私は、今、そのことを、母から、ああ、ずっと、私は、母から教えられてきたんだ。ずっとずっと教えられてきたんだ。そのように、思っています。

異語。

\*\*\*さん、心に、お母さんをお呼びください。

異語。

お母さん、苦しかった、苦しかった、苦しかったよ。お母さん、苦しかった。どれだけ苦しくても、苦しうって言えなかった自分が苦しかった。

苦しうて、苦しうて、私は、自分を何度も何度も殺してきた。

それが私の転生でございました。今、心を語りなさい、心を開いていきなさい、あなたの

苦しみを、全部、全部、あなたが自分で見るんですよ、そのように伝えられている私は、幸せです。

\*\*\*という肉体をいただいて、私は、この心を自分の中で見てまいります。お母さん、ありがとうございます。

五八、\*\*\*さん、心を語ってみてください。

私は、\*\*\*でございます。他力の思いが、とても強いです。私は、パワーを求めてきました。ここに集う前も、パワーを求めてきた者でございます。だから、その心癖が、とても強いです。この学びにおいても、パワーを求める思いを、自分の中から感じます。田池留吉を思うとき、私にパワーを授けてください、あなたのパワーで、私の苦しいところを、そのパワーで癒してください、その思いを感じます。

\*\*\*さん、なぜあなたは、パワーを求める思いが強いのですか。

私は、寂しい心を抱えています。寂しい、寂しい、寂しい、その心でずっときました。ああ、だから、この心を癒すために、パワーを求めてきました。パワーは素晴らしい、パワーは素晴らしい、私の心を癒してくれる。そして、みんなをこのパワーで癒してあげる。そのような心で、ずっときました。

ああでも、この学びの中では、私の思っているパワーは与えられない。私は、そのように思っています。私の心とこの学びは、本当にズレがあったんだ、ああ、今、自分の心を語って、私はそのように感じています。

異語。

あなたは、お母さんのことを、どのように思っていますか。

はい、私は、母親が苦手でした。とても苦手でした。母親は、立派な母親でした。でも、私は、その母の期待に応えることができなかった。だから、私は、母親が苦手でした。苦手というよりも、私は、母を疎ましく思ってきました。私に高いハードルを課す母に対して、ああ、何とも言えないものを感じてきました。そして、そう、心の中では、母を憎んできたのだと思います。

今、私の母は年を取っています。年老いた母を私は見て、この心、私のこの心を引き出してくれた母親なんだなあと、私は、そこに、何かを感じています。本当に、私は、バカなんです。バカだった、バカだった…。

今、今、母を、お母さんをどのように思っているかと聞かれて、私は、自分の心の貧しさを感じています。

\*\*\*\*さん、あなたの周りには、この学びのお友達がいないのでしょうか。

いいえ、いなくてもいいんです。あなたが、しっかりと本を読んで、そして、CDも聴いて、そして、あなたの思いを自分で見て、そんな時間を過ごしていつてください。

学びを信じて、本当のあなたを信じて、そういうことをきちんとして、そして、どうぞ、瞑想を続けていつてください。

五九、\*\*\*\*さん、心を田池留吉に向けて、あなたの心を語ってみてください。

私は、とても苦しい人生を歩いてきました。ああ、私が背負ってきた重い荷物を、今世もしっかりと、見させていただいています。

でも、嬉しいことがありました。真実へ繋がる道に、私が私を導いていきました。ああ私は、とても嬉しいです。私の目から涙がこぼれます。大粒の涙がこぼれます。頭がガンガンガンと痛いくらいに、私の中は、荒れ狂っていると思います。

でも、私は嬉しいです。私の心を本当の私に向けて、日々の生活を送っていかうとしています。まだまだ厳しい私の生活ですが、それでも、私は、本当に今、よかったと思っています。これからの私を思うとき、心が大きく、大きく膨らんでいきます。

どんなことでも受け入れていけそうな私があります。

だってそうでしょう。私はずっとずっと探してきた道、探してきたこと、それを今、私は、心で感じています。ほんの少しかもしれないけれど、私の心は感じています。学びの時間は浅いけれど、でも、ここに繋がって、よかった、嬉しい、ありがとう、幸せ。ありがとう、ありがとうございます。

六〇、\*\*\*さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、\*\*\*です。自分の心の貧しさに、私は驚いています。



こんなにひどい心を詰め込んできたのか。こんなにすごい心を詰め込んできたのか。自分の心を見るって、本当にすごいことなんですね。

私は、自分の中を、本当に押さえ込んできたと思います。

お母さん、ありがとうって、自分の中を、解放していくことを知りませんでした。私は、この学びを、頭で、肉の頭でやってきたと思います。

心で感じるものはあります。心は色々なものを感じます。でも、私は、感じたものを、自分の肉のところで留めていた、そのように思います。

お母さん、ありがとう、素直に自分をそうやって、解放していくことを、私はしてきませんでした。だから、私の心は、いつまで経っても暗かった、暗かった。苦しくて、苦しくて、暗かったです。

はい、今、少しだけ、自分の心を吐き出させていただきました。

六一、\*\*\*さん、どうでしょうか。あなたは、ご自分のエネルギーを、その肉体を通して感じて、どうでしょうか。今、どのように思っていますか。

人を導いていくことの間違いを自分の中で、感じてきていますが、私は、やはり己を表していきたい、その思いがとても強いです。

人を導いていく、私は、それが、どれだけのすごいエネルギーであったのか、どれだけ間違ってきたのかということ、全く知らなかったです。

いいことをしているとばかり思っていました。人のお役に立てることを、私は、誇ってまいました。

みんなが幸せになるように、私は、そのような思いでできたと思っていました。でも、心の奥は、己の支配下に置きたいためでした。

己というものを誇って、己の傘下に置きたかった。我を見よ、我に従え、その思いを、ずっとずっと広げてきたんですね。

異語。

\*\*\*さん、あなたも、人の身体を治療されると伺いましたが、どうでしょうか。

はい、私も、その思いを、この手のパワーと言いますか、ハンドパワーを、私も信じてま

いりました。心をきちんと向けていれば、私は、そのことができると思ってやってまいりました。でも、その心をきちんと向ける、その向け先が問題だったんですね。

今、私は、恐ろしいことをやってきたんだと、自分で思っています。

ああ、でも、私は、何も別によこしまな思いで、やってきたものではありません。やはり、自分の中を信じて…。そして…。

ああそうだ、治してやろうとか、ここに思いを集中して、そういうことが、間違いだったんですね。

すべては、私の思いが間違いでした。

私の意識の世界を、自分で知らなかったです。だから、私は、間違ってきたんですね。

異語。

\*\*\*\*さん、あなたがおっしゃったように、人を導いていくというのは、間違いでございませぬ。人の幸せを願って、人を導いていく、それは間違いなんですよ。みんな自分の中に、本当の自分を持っています。

傍から見れば、苦しい、辛いことだって、その人にとっては、必要なことなんです。必要

以上に手を差し伸べる、その心の裏側は、己を見よ、我に従え、そうその思いでしょうね。だから、あなたの心の向け先を、しっかりと見ていってください。

心の針をタイケトメキチに合わせる、これは難行苦行です。

皆さん、合わしている、合っていると思っておられます。

心の針をタイケトメキチに合わせる、とても難しいことだと思います。

六一、\*\*\*\*さん、あなたの心を少し覗いてみてください。

はい、私は、\*\*\*\*でございます。お母さん、お母さん。

私は、この肉体を自分の下らない欲望のほうに、ずっと、ずっと長い間使ってまいりました。欲つたれの私でございました。お母さん、ごめんなさい。お母さん、ごめんなさい。

心に広がる母の思いを、私は感じ、その思いが心から飛び出てきます。

下らない欲のために、私は、この肉体細胞を使ってきた、そのことが、お母さんに申し訳なくて、申し訳なくて、私は、今、そのように思っています。

## 異語。

\*\*\*さん、奥さんはどうでしょうか。ともに学んで幸せですよ。

はい、互いにすごいエネルギーを出し合ってきた私達夫婦、ともに学ばせていただいて、とても幸せです。他力の道を、ずっと、ずっと歩いてきた私達でございました。心に詰め込んだエネルギーは、すさまじいものがございます。しかし、私は、この家内とともに学ばせていただいたことを、感謝です、感謝です。本当にありがとうございます。

六三、\*\*\*さん、心を語ってみてください。

私は、私を崩そうとしていますが、その崩し方が分からない。

私は、やはり、いい格好をしているのですね。自分を振り返り、そう思います。

ですが、私は、セミナーに行けることは、嬉しい。単純にそう思います。なぜ嬉しいのか。ここで言われることを、まだまだ私は、自分の体験としてはいけないけれど、セミナー会場に行

くことは、嬉しいと思います。田池先生に会えるのを、嬉しく思っています。

ああ、そう言えば、私は、今、自分の中で、寂しい、寂しい、寂しい、お母さん、寂しかった、こんな声が聞こえてくるような気がします。

お母さん、寂しかった。私は、寂しかったです。お母さん、寂しかった。

どんなに、恵まれた状態でも、私の心は、寂しかったんだと思います。

その寂しさを、私は、心に抱えて、ずっと生きてきたんだなあと、今、思っています。

あなたの奥さんの状態を見て、あなたは、どのように感じてきましたか。

異語。

はい、妻がとても羨ましく思いました。彼女にとっては、大変なことでしょうが、彼女は、自分の思いを、吐き出そうとしている。苦しい自分の思いを吐き出そうとしている。それが、とても、羨ましく感じました。

不安で、眠れない日もあったようです。でも、その時、彼女は、自分の中を必死で見ようとしていました。そんな彼女を、私は、羨ましく見つめていました。

私の中にも、あのような苦しみがあるのだろうか。あるとするならば、今語った寂しさ、寂しい私に違いない。そうですね。寂しい私が、私の中を、占領しているような気がします。

異語。

\*\*\*さん、あなたの心を押さえ込んでいるエネルギーは、アマテラスでございます。こ  
うあなたにお伝えしても、まだ、あなたの心に、ピンとこないと思います。ですが、私は、あ  
なたの中のアマテラスの思いがとても強いのを感じます。

アマテラスは、ご承知のように、形を整え、気高き己を誇る思いでございます。崩してな  
るものか。この私が崩れてなるものか。その思いを抱えて、アマテラスの心は、寂しく、寂し  
く、氷の世界の中で、縮こまっているのですよ。あなたは、その世界を、まだ自分で感じてい  
ないでしょうが、私は、あなたのその心を感じます。あなたが、今世、その身分を持ったとい  
うことは、非常に大きな意味があります。あなたにとって非常に大きな意味があります。そこ  
にあなたの心は、繋がっています。

これから、あなた自身が、その目や耳を通して、見たり聞いたりできるかどうかは分かり  
ませんが、これから、あなたが繋がっているとところが、誰の目にも明らかのように、崩れてま

います。

アマテラスの崩壊、まずはそこからでございます。

六四、\*\*\*さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は\*\*\*です。心が苦しい、苦しい、苦しい。瞑想をしようとも、私の心は、まだまだ苦しいです。私の学び方は、違っていたんですね。今、自分の心が苦しい、それを私に伝えてくれました。

あなたの学び方が違っているよ、だから、私は、何時まで経っても苦しいんです。そのように、私に伝えてくれました。

\*\*\*さん、息子さんのことを、どのように思っておられますか。

はい、私の姿は、あの息子に表れています。私の思いの世界は、あの息子を通して、表れていると感じます。



どうしてそんなにあなたは…、私は、その言葉を飲み込んでしまいます。どうしてあなたは…、それは、そっくりそのまま、私に向けているのですね。私は、そのことを、長く、長く学ばせていただいたにもかかわらず、理解することができませんでした。己が立派だったからです。そびえ立っていたからです。私は、息子を、自分の心の表れだと、そのようにはとらえてきませんでした。

今、自分の心を語るとき、そうだった、そうだったと思っっています。

お母さんを思ってください。お母さんに、あなたの思いを向けてみてください。

私は、\*\*\*。母親を、何度も何度もこの心で殺してまいりました。

何度生まれ来てきても、私は、母を憎んで恨んできた。この心の中に、その思いが、しっかりと蓄えられている。今、そのことを感じます。

でも、私は、今世もまた生まれ来ました。肉体をいただきました。

お母さんに生んでいただきました。この心を見るためです。道を外して生きてまいりました。

六五、\*\*\*\*さん、心を語ってみてください。

私は、\*\*\*\*でございます。

私の中に神があると、私は言われました。その神とは、私の中で絶対なるものだと、私自身信じていました。しかし、私は、セミナーに参加してみて、自分の信じている神とは何だろうか、セミナー後、それを自分に問いかけてきました。そして、心に響く思いは、私は、間違っていたのではないかなあとということです。

絶対なる神を信じてきた私の過去からの思いがあります。心に向けるな、向けるなど私の中に呼ぶ声があります。

でも私は、あの時感じた優しい思いを、私は信じていきたい、信じていこうと思っています。心の中の神を信じてきた私自身に伝えたい。

私は、間違ってきた神を心に入れてきた。あなたのおっしゃる神を、私は知りたい。神という言葉は、私の中では、はい、私の中では、絶対なるものだと思ってきました。神はひとつだと、私自身思ってきました。

でも、その私が信じてきた神が違っている。あなたの信じてきたものは、神ではない。そのように、私は、この前、伝えられたように思います。

その思いを、自分の中で確認したい、確認していききたい。ああ、私は、今、そのように思っています。

\*\*\*さん、あなたにとつて、日本は、遠いところにありますね。それでもあなたは、十二月のセミナーに来られるのでしょうか。

時間的にも、経済的にも、物理的にも、とても遠いところだと思えます。

その私が、私の中で、行きたい、行きたい、行きたい、そして、行かねばならないという思いを感じます。この思いがとても強いと感じます。

心の底から起こってくる思いのような気がします。その一方で、私は、それに歯向かう思いも感じるの、確かです。

私は、今、そのような状況にあります。でも、残り少ないセミナーの時間を、私自身可能な限り活かしていききたい、その思いが出てきます。

異語。

タイケトメキチを思ってください。

あなたは、十月のセミナーで、田池留吉の肉を見ました。肉眼で見ました。今、あなたの心で、その田池留吉の肉を思い浮かべながら、少し、そちらのほうに心を向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉、何の変哲もない老人でございました。しかし、私は、あの人に、何か、何か思いを感じます。

私の中から、あの人に出会いたかったという思いを感じます。

まだ、微々たる思いかもしれません。私の錯覚かもしれません。でも、今、田池留吉の肉を思い浮かべながら、そちらのほうに思いを向けてみてくださいと言われたとき、私は、ふつとそう思いました。

異語。

\*\*\*さん、ホームページを見えていますか。本をしっかりと読んで、ホームページを見

て、そして、「正しい瞑想の仕方」の小冊子に従って、瞑想を続けていってください。もちろん、お母さんに使ってきた心を、まず見ることです。

あなたの中には、母親に使ったすさまじい思いが蓄積されています。

その一端を、セミナー会場でも、あなたにお伝えしましたが、そのエネルギーを、どうぞ、あなたの心で感じられるようになってください。

すさまじいエネルギーの中で、あなたは、今世のその肉体を、いただいたんです。そのことについては、あなた自身が、自分自身を知れば、もう何も言えないと思います。愚かでしょうでもない自分の心の世界を使いながら、手を差し伸べてくれたのは、母親の温もりだけでございました。

あなたが信じる神ではございませんでした。母親の温もり、それは、あなた自身です。あなたの心の奥底にあるあなた自身が、あなたに、手を差し伸べたのです。あなたは、そのあなた自身を葬り去って、神を、まさしくブラックの神を、心に入れてこられました。

それがあなたの転生の数々でございます。どうぞ、そのことを、今世の時間の中で、ほんの少しでもいいですから、あなた自身、心で感じられるような学び方をしていってください。そして、あなたのこれからの転生に繋いでいってください。二五〇年後をお待ちしております。

六六、\*\*\*さん、思いを語ってみてください。

はい、田池留吉。私は、自分の歩んできた道のりを、今、自分なりに振り返っております。一生懸命、夫として、父親として、私なりに生きてきたけれども、私は、自分のエネルギーを自分の肉体を通して感じていったときに、私の人生は、そういうものではなかったことを感じてきました。

セミナーに集わせていただいて、己のエネルギーを知る機会をいただきました。あとは、それを、どのように自分自身で、見ていくかです。

もうすでに、さいは投げられた。あとは、それを、どのように自分の中で、広げていくかだけだと、私は思っています。

今世の人生の区切りを、私自身つけたいと思います。

過去からの私は、言わずと知れたこと、苦しい、道のりを歩いてきました。しかし、今世、真実に、この肉体を通して触れたのです。そのきっかけを、大切に、今、私があることを大切に思い、これからの時を刻みたいと思います。

あなたは、奥さんに対して、どのように心が変わられましたか。

家内には、何不自由なく生活をしていけるだけのものを、私は、渡してきたと思い、一家の長たる私の責任は果たしてきたと思ってきました。

でも、それは、そうではございませんでした。私は、心の中で、家内を見下していました。どうして、お前はそんなに偉いんだ。私があつてのお前ではないか。お前は、私なしでは、一日だって生きていけない。そのことを、お前は、どれだけ心で知っているんだ。私は、そのように思いで、妻と生活をしてきました。

私は、常に上でした。家内は、その私の思いを知ってか知らずか、家内は家内で、すごいエネルギーをぶつけてきました。

どれだけ、私が、家のことを思っているのか、あなたには、分からないでしょう。あなたは、外へ行けばいい。私は、家を守っている。そのすべてを私に押し付けて、あなたは、外にいい格好をして、私を何だと思っているのか。そのような思いで、彼女は反発してきました。

その現象がたぶん、息子に出ているかと思えます。息子は、私達夫婦の心のやり取りが、とても苦しかったのだと思います。

息子は、息子の問題でしょうが、私達のエネルギーを感じて、あの子なりに苦しんできた

ことがあったと思います。私は、いい父親を演じ、いい夫を演じてきたつもりですが、この学  
びに集って、とんでもないということを、感じ始めてきました。今は、自分の時間を自分のた  
めに、なるべく使つていこう、そうすることが、家族のためにもなることだ、今は、私自身は、  
そのように思っています。

六七、\*\*\*さん、あなたは、今、どのような思いで、生活していますか。

私は、\*\*\*でございます。私の心は敏感でした。敏感だから、色々なものを、まだ小  
さな時から感じてきました。私は、友達のように普通に学校に行つて、その学校生活を樂しむ  
ということを、自分の中で拒否してきました。それがとても苦しかったです。両親の期待を一  
身に背負つて、私は、その思いがとても重苦しいのを感じ、私は、親に反発をしてきました。  
それが普通に学校へ行けなかつた大きな理由です。

両親の期待を背負つてきました。苦しかったです。とても苦しかったです。もうやめてく  
れど、何度も何度も訴えたけれど、両親は、私の言うことなど何も聞いてくれませんでした。  
心を向けてくれませんでした。それがとても腹立たしく、とても苦しかったです。



そして、私は、この学びに繋がりました。両親も学んでいます。

私は、今ひとつの家庭を築いています。嫁さんをもらい、子供があります。一家の主です。今、昔を振り返るとき、私は、今の生活が不思議なくらいです。今は、自分のその頃の思いを思い出し、そして、ひとつの家庭で、妻や子供に対する思いを振り返っています。もちろん、両親に対して、まだまだ自分の中では、反省ができていません。

親の思いというものを、私は、どれだけ拒否してきた自分だったか、それが、どれだけすごいエネルギーで自己中心的であったのか、まだ、私の中では、よく分かっていません。

でも、今は、みんなが、この学びに繋がっているような境遇です。

とても恵まれています。恵まれているから、ついつい甘えが出てしまいます。生活は、何も不足はありません。私は、本当に恵まれた境遇にあると思います。周りを見渡せば、学んでいる人ばかりです。

ああでも、その中でも、自分のすごいエネルギーを感じます。ああ、私は、自分が本当に偉かったんだなあ、自分ほど偉いものはなかったんだなあ、そんなエネルギーを日々の中で感じながら、私は今います。

異語。

お母さんに対する思いを語ってみてください。

はい、ああ、くそ、くそ、くそばばあ、くそばばあ。そういうような思いを何度も、何度も使ってきました。繰り返し、繰り返し、使ってきました。お前のエネルギーは苦しい。私を支配するのはやめろ。お前の押し付けを私に向けてくるな。ああ、それは親の愛情じゃない。親の押し付けに違いない。私は、だからこんなに苦しいじゃないか。苦しい、苦しい、もうやめてくれ。ああ、私は苦しい。そんな思いを私は母親にぶつけてきました。

はい、母は、母で、私はこれだけ、あなたのことを、一生懸命思っているのに、私の思いがなぜ分らないの。ああ、お父さんもお父さん、私にみんな押し付けて。私は、どこへ心を向ければいいの。そんな思いが返ってきました。

みんな、みんな、自分中心の思いばかりだったんですね。

今、私は、そう思います。母親に対して、優しい思いを向けることはなかった。肉のお母さん、ごめんなさい。私のことを、思ってくれてやってきてきたあなたに対して、私は、自分の中を見ることなしに、あなたに、自分の苦しいエネルギーをぶつけてきました。

六八、\*\*\*\*\*さん、心を語ってみてください。

私は、\*\*\*\*\*でございます。今、私は、自分の中を見ようとしていますが、なかなか自分の心癖を改めるまでにはいきません。

私も長い間学ばせていただきました。パワーを求める思いが、とても強いことを、私自身感じてきました。そして、自分の肉体を通して、そのすさまじいエネルギーも感じました。身体が粉々に吹っ飛んでいくようなエネルギーを感じてきました。なのに、私の中は、まだまだ改まるような気配はない、そのことがとても残念です。

肉の私は、多少とも優しくなつたと思います。母に使ってきた心を振り返り、そして私は、肉の母親に、自分なりに、以前とは違って優しく接しているように感じます。しかし、私の心の中はすごいです。

それを感じるだけに、本当に、何億年という時間の中で積み重ねてきた心癖は、すごいなあとつくづく思っています。

異語。

\*\*\*さん、あなたの心の中は、寂しい思いでいっぱいですね。そのあなたと、もう少し真向かいになってみてください。

底なしに寂しいから、そんな自分を見たくはない。底なしに寂しいから、そんな私は認めたくない。だけど、あなたの中には、寂しい、寂しいあなた自身が、たくさん、たくさんいます。その寂しいあなたが、寂しさをどうにかしたいから、パワーを求めてきました。素晴らしい自分を：、そうではありません。

寂しい自分をどうにかしたかったんです。お母さんに心を向けて、寂しい自分を抱きしめてあげてください。

あなたの求めてきたパワーでは、どうすることもできなかった寂しい心、それは、あなたの中の本当のあなたの思いで、抱きしめる、そうやっていくうちに、心に詰め込んできたすさまじいエネルギー、少しずつですが、弱くなっていくでしょう。

それしか方法はないのです。寂しい心と真向かいになってみてください。

六九、\*\*\*さん、お父さん、お母さん、セミナー会場に来られましたね。あなたは、ど

うでしょうか、幸せでしたか。

はい、私は、父と母とセミナーに集えたことが、とても嬉しかったです。

父も母も、何も言わないけれど、喜んでくれているような気がしました。私は、親孝行をしたかった。ただ、親孝行をしたかった。どうすれば、親が喜んでくれるだろうか。私を今まで、育ててくれて、今も私のことを気にかけてくれる両親に対して、私は、何をすれば一番いいのだろうか。私は、やはり、この学びを伝え、セミナーにいっしょに行くことだと思います。それが、一番だと思いました。

こんな簡単なことが、私は、長い間分からなかったです。両親の心が、何か伝わってくるような気がします。

心を開いて、もっと語り合いたかったと思っています。

\*\*\*さん、奥さんについては、どうでしょうか。夫婦仲良く暮らしておられますか。

異語。

互いにすさまじいエネルギーを出し合い、我一番の世界を、互いにぶつけてきました。もうたくさんです。もうたくさんです。

私は、私は、私は、幸せになりました。

だから、もうやめていきます。自分をもう落とすたくはない。幸せな私と出会いたい。きっと彼女もそうだろうと思います。

その方法が私達には、分からなかったです。そんな気がします。

七〇、\*\*\*さん、どうでしょうか。セミナーに続けて参加されて、今、どのような思いを持っておられますか。

私は、\*\*\*です。田池留吉、お母さん。心の中で、私を呼んでくれているお母さんがありました。いつも私のことを思ってくれているお母さんがありました。

そんなお母さんを、私は、ずっと忘れてきた。

立派な自分を目指して、私は生きてまいりました。母に使ってきた心を、思い浮かべながら、瞑想をして、この年になって、私は、ようやく、自分が間違ってきたことを、少し知りました。

私の中にお母さんはなかった。だから、私は、苦しかったし、幸せから遠ざかっていた。そうだったんですね。自分の幸せは、今の私の幸せだけではありませんでした。

肉が不幸せでも幸せである、そうは思いませんが、私は、肉が幸せでも、私自身が幸せではなかったことを、少し知りました。

時間を見つけては、自分を振り返ります。自分に用意してきた時間を、大切に使っていると思います。

\*\*\*さん、奥さんに対して、どのような思いでいますか。

はい、とても、賢い妻だと思ってきました。そのエネルギーたるや、すさまじいものがありました。賢いと思ってきたのは、この私にとって、都合がよかったからです。賢く立ち振舞ってくれる妻を、私は…。

申し訳ございません。私は、自分だけのことを考えておりました。すべてが自分中心でございました。

今、母を思う心で、妻を思ったとき、本当によくしてくれたなあと思います。口うるさいところもあり、私の前にしゃしゃり出てくる妻を疎ましく思ったときもありましたが、でも私

は、本当によくやってくれた、そのように思います。

今できるだけ、私達ふたりとも、本当の自分に帰ろうと、肉でも努力しています。意識の転回をするに至る道は、まだまだ厳しいところがありますが、まずは、肉からでもそのような方向に、心を向けていこうと、私達ふたりは話し合っております。

真っ黒な時間空間を、互いに経てきた意識です。今世、夫婦となって、この学びに繋がって、そして、互いが互いを見させてもらう環境を作りました。これを私達は、ともにこの肉体をなくすまで、大事にしていきたいと思っています。

私は、今、自分を振り返るとき、やはり、私は幸せだと、しみじみ感じています。

七一、\*\*\*さん、心を語ってみてください。

私は、\*\*\*でございます。私は、すごいエネルギーを持っています。肉の才能もすごいものを持っていると思っております。頭もすごい。賢いやつだと、誇ってきました。才能に溢れている自分を誇ってきました。でも、どれひとつ、自分の本当の思いに沿って活用したものはありませんでした。私は、今、そう思います。



タイケトメキチ、心が苦しくてなりません。自分が予定してきた道を、私は、充分に歩んでいるとは、言い難いからです。

自分を自分で裏切っていく、そうなりたくはありません。今世だけは、そうなりたくないと、私は、私自身も生まれてきたと思います。でも、私は、自分の予定してきた道を、順調に歩いているかと自分に聞いたとき、その答えが出てきません。

\*\*\*さん、あなたは、他力の思いを自分の中で見てこられましたか。

私は素晴らしい、私は素晴らしい、私は神である。私は素晴らしい、私は素晴らしい。そうやって、私は、自分を誇ってきました。すごいエネルギーが素晴らしいと誇ってきました。神を求めてきた私のエネルギーこそ、素晴らしいものだ、そのエネルギーが私の中から、ずっとずっと出ているのを、私は、甘く、甘くとらえておりました。

パワーを求めてきた私の思いは、とても大きなものがございます。田池留吉を殺してやるという思い、その思いがまだまだ、私の中には、たくさん、残っています。その思いが愛しい、愛しいと思えずに、自分を、まだまだ苦しめています。私は、まだ、そのような段階です。

他力の思いを見てこられたか、そう訊ねられました。私は、いいえとしか答えることができません。他力のエネルギーに酔ってきた自分を誇ってまいりました。ただ、誇ってきただけです。私は自分の中の思いに、優しい思いを向けることをしてきませんでした。

お母さん、申し訳ございません。お母さん、申し訳ございません。

異語。

\*\*\*さん、そうですね。心をお母さんに向けて、あなたの今世の時間を自分の予定してきた道筋に乗せることができるように、しっかりと自分を見つめていってください。せっかく学びに触れたのに、道遠しの人、道半ばであきらめる人も、たくさんいると思います。これから、ますますその数が多くなると思います。しっかりと自分の心を見つめる、そのために生まれてきた、そういう自分であったことに、早く気付いていってください。

異語。

他力のエネルギーは、皆さんが考えているような生易しいものではありません。本当に心

から、そう思っておられますか。

他力のエネルギーを、甘く見ないでください。心を、しっかりと見つめていってください。

七二、\*\*\*さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、\*\*\*です。私の生活している土地は、とても私にとっては、辛いところがございます。私はその中で、心を見る学びに繋がりました。

心に色々なものを感じ、瞑想することが怖いと思うときがあります。でも、私は、やはり、この学びを自分の中で、一歩ずつやっていきたいという思いがあります。ああ、でも、他力のエネルギーに引つ張られていく私もございます。それほど、この地は、とても、他力のエネルギーの強いところです。分っております。分つていながら、それでもやっていこうとしたから、私は、ここに生まれてきたんですね。

この地を離れることはありません。この地を愛していると言えます。

しかし、難しいです。難しいけれど、やっていかなければならない、やっていきたい、そう思います。

異語。

沖繩の地は、一種独特の土地でございます。守り神があります。生まれた時から、そのことを言い伝えられてきました。その中で、すべてが成り立っています。守り神の教に背くことはできない、皆さんの心の中に、そう植え付けられました。いいえ、植え付けられたものではありません。みんな、その心を持って生まれてきたのですね。沖繩の地は、そういうところでございます。そういうところに、転生をする意識達、とても厳しい転生だと思えます。しっかりと自分の心を見つめるということをしていかなければ、やはり、そこに埋もれていってしまうでしょう。

沖繩の地を愛した人達が、沖繩の地とともに沈んでいくとき、どのような心を出して、死んでいくのでしょうか。

おそらく、神を呪い、神を恨み、自分達を見捨てていく神を、憎しみの思いとともに沈んでいくのだと思います。その中で、ひとりでもふたりでも、ありがとうございます、お母さん、ありがとうございます、ありがとうございます、と言って、その身を捨てていくことができたなら、そこにひとつの奇跡が起こると思います。

異語。

沖繩を思うとき、海の底に沈む意識達の思いを感じます。すべての意識達の苦しみを…。沖繩という地は、今、その意識達の現れでございます。

異語。

沖繩の人達にお伝えします。今世、この学びに繋がったあなた達、ほんの僅かかもしれないが、どうぞ、日々の中で、心をタイケトメキチ、真実の自分に向けていってください。そうやって、今世の時間を終えていってください。

苦しい、苦しい、意識達とともに、心をタイケトメキチ、アルバートに向けること、その優しさを、あなた達の心の中にお伝えしたいです。

お母さんの温もりしかございません。沖繩の地を愛するならば、日々、お母さんの温もりを、心に広げていけるような時間を作ってください。

七三、 ＊＊＊＊さん、 思いを語ってみてください。

私は、 ＊＊＊＊です。 己を誇ってまいりました。 私は、 己を誇ってきました。 自分のこの身を誇ってまいりました。 その思いがとても強いです。

私は、 みんなから尊敬される立場にございました。 と、 自分でそう思ってきただけです。 何も私は、 特別に立派なことをしてきたわけはありません。 生まれてきて、 小さな私を母は育ててくれて、 そして、 私は、 教育を受けました。 教育を受けて、 一生懸命勉強をして、 私は、 私の人生を生きてきたつもりです。 真面目に生きてきたつもりです。

それが、 これだけ己を誇っているのかと思うほど、 己が偉くなつてしまいました。 何も特別なことをしてきたわけじゃない。 私のような人は、 世間に、 ごまんといます。 特別な才能もない。 特別に何を持っているわけでもない。 そんな私なのに、 私は、 自分の心を見たときに、 己一番、 我一番、 私はすごい、 すごいんだ、 そんな思いが見えてきます。

私は、 日頃、 自分なりに反省をしてきましたが、 これだけそびえ立っている自分は、 まだまだ分らなかったです。

心を語りなさいと言われたとき、 すぐに出てきたのは、 我一番、 己偉し高しの自分のごぞ

いました。

本当に、私は自分のことを、何も知らないと、今感じています。

あなたは、奥さんのことを、どのように思っておられますか。

私は、妻を、私も、妻を見下してまいりました。妻を見下してきた。

うるさいんですよ。私の前にいつも、いつも、しゃしゃり出て、お父さん、あれしたの、これしたの、これはどうなの。もううるさい、うるさい、うるさい。私は、そのような妻を蹴散らしてきました。

妻は、一生懸命、私の世話をしているつもりですが、私は、ただ、うるさい、うるさい、うるさい、その思いばかりが出てきていました。

私のことを何も考えていない。結局は自分のことだけだ。私は、そのように、妻の思いを跳ね返していたのです。

私は、本当にくだらない人間だと、今、感じています。私のことをあれこれ心配して、色々と言ってくれる人に対して、何という心を使ってきたのだろうか、今、語りながら、そう思います。

お母さんに対しては、どうでしょうか。

はい、いやもう言わないでください。母親を見下し、見下し、見下してきました。お母さんから生まれて、小さいあなたを育ててくれたんですよ、そんなこと分かっていきます。ああでも、私は母親を思うとき、そのことにただ嬉しい思いを広げることなく、私は、母の思いを苦しく受け止めていた自分があります。

ああ、私は、母にも支配されてきた。そんな思いを感じます。

立派な母親です。働き者の母親でした。だから、私のことが、とても気になるんですよ。私のあれこれを、心配して、色々と口を出してきました。母親から、そのうるさい母親から逃れられたと思つたら、今度は、妻です。そのような私を感じてきました。

でも、そうじゃなかったんですね。うるさい、うるさい、うるさい、うるさい、うるさい、これが私の思いだったんですね。

目の前の人は関係がなかった。ただ、ただ、うるさい、うるさい、うるさいと、怒鳴り散らす自分の心、その心を見るために、周りがあった、今そのことを感じていきます。



七四、\*\*\*さん、お元気でしょうか。

私は、\*\*\*でございます。タイケトメキチに思いを向けてみました。私の心の中のタイケトメキチに思いを向けてみました。

真っ黒な、真っ黒な自分を感じ、私は、愕然としました。喜んでいる私があったのに。私は、確かに喜んでいました。喜んでいる私があったのに。ああ、私は、でも、自分の心の中を、まだまだしつかりと見つめていない私を感じます。

異語。

私は、\*\*\*の意識でございます。気高き私を誇ってまいりました。

ああ、私の中には、聖母マリアが生きている。そのことを感じます。まだまだ心の奥底に生きている、この思いこそが、真っ黒な私でございます。喜んでいる私は、この真っ黒な私を捨て切れずにいた。ああ。だから、私は違っていました。

異語。

\*\*\*さん、ご主人に対して、今、どのように思っておられますか。

私は、以前よりも、主人に対して柔らかく接するようになりました。

でも、心に溜めてきた主人への恨み、憎しみ、嫉妬の思い、まだまだしっかりとあります、あります、あります。

それは、今世だけじゃなかったから、当然なんですね。でも、私の中にこれほどのすさまじいエネルギーがあつたと、今、私は、自分を語ることにより、そのエネルギーと向き合っています。

異語。

七五、\*\*\*さん、あなたの心を覗いてみてください。

私は、\*\*\*でございます。日々の暮らしの中で、なるべく自分の思いを見ていこうと  
していますが、私は、自分の中の他力の思いが、とても強いを感じます。その思いを、自  
分の中で、ひとつひとつ見ていくことは、とても大変な作業です。

話を聞かせてもらって、いい学びだと思いました。私の中で頷くところがありました。あ  
あでも、私の心は、やはり、以前の他力信仰のところのままでございます。自分の心の中に、  
本当の私がある、そのことを聞かされたとき、そうだなあ、その自分に出会えたら、どれだけ  
幸せな自分だろうかなあと思つたこともありました。でも、私は、今、その思いが、自分の中  
で遠くになつているのを感じます。

やはり、私の中には、現世の幸せを願う心がございます。心安らかに、心穏やかに、何不  
由なく生活をしていきたいという思いが、根底に流れています。そのために他力信仰の道を歩  
いてきました。取り立てて、贅沢な暮らしがしたいとか、有名になりたいとか、みんなから崇  
められる私になりたいとか、そういう思いではないけれど、私は、やはり、自分の周りが整つ  
てほしい、整えるために何かしらのものを、求めていたと思います。

異語。

あなたは、あなたの心を語っていないと思います。あなたは、この学びについて、もう少し、自分の心を素直に語ってみてください。

私は、\*\*\*の意識でございます。

心の中に神を求めてきた私の中では、この学びはとても頼りないものに感じました。もっと素晴らしい私を見出したかった。もっと素晴らしい何かを見出したかった。やはり、私は、パワーを求めてきたんです。素晴らしい私を見出したかった。その思いがとても強いです。そのためだったら、何だっつてする、そう、過去からずっと、そう思ってきました。

私は、特別でなければならぬ。特別な存在を求めてきた。この心に求めてきました。それが、欲だと言われました。私は、そのことがとても気になり、いいえ、自分の中で反抗していました。選ばれた者だけが神の道を行く、そのように私は、ずうっと、ずうっと、そう教えられてきたような気がします。今世の私の中に、そのような思いが響いてきて、その思いが、私の肉を動かすエネルギーでございました。学びは、私が求めてきた道とは違っているような気がします。

異語。

\*\*\*さん、お母さんを呼ぶことができますか。そして、田池留吉の目を見ることができるとはどうですか。

はい、母を呼ぶとき、とても、とても、暗い、暗い真つ黒な私を感じます。

私は、母親の思いをすべて否定してきました。母を憎んできた、母を殺してきた自分がある。なぜ私は、こんなところに生まれてきたのか。母にいつも問いかけてきました。母にその答えを求めてきました。

母親の温もりを、私は、すべて否定してきました。

はい、田池留吉の目を見ることができません。真つ直ぐにその目を見ることができない。その目は、私の暗闇を、じっと見つめています。

あなたの心は間違っていますよ、あなたは間違っている、そうやって、私を見つめている。私は、その目に応えることができません。母親の温もりを否定してきた私は、その目を見ることができない。私は、見るることができないのに、その目は、私を見つめています。私を優しく、優しく見つめている。その優しさに私は応えることができない。応えることができません。

七六、 ＊＊＊＊さん、心を語ってみてください。

私は、 ＊＊＊＊です。間違ってます。お母さん、間違ってきました。私の心の使  
い方が間違ってきました。物事を見通せることが、素晴らしいことだと思ってきました。

私は、それをよしとしてきた、たくさんのお世を抱えておりました。

今世も、道を外すところでもございました。肉の私が、はつきりと自覚している段階でない  
ときに、そう言われました。

私は、それから、自分の心を見ようと必死になりました。

私の中にも、古いババア的な思いが潜んでいる、心の奥底に潜んでいる、これが、私が道  
を誤ってきた大きなものでした。そのことを、私自身、心を見るということを通して、自分の  
心で感じるようになりました。

間違ってます。間違ってます。

異語。

\*\*\*\*さん、タイケトメキチに心を向けてみてください。

異語。

七七、\*\*\*\*さん、今のあなたの思いを聞かせてください。

私は、\*\*\*\*と言います。はい、他力の思いを引きずりながら、私は、この肉体をいただいたんですね。心の中の思いを語るとき、私は、とても、恐怖を感じます。

お母さん、お母さん、私は、お母さんを求めてまいりました。暗い、暗い真つ暗な中で、母を求めてきた。その思いを、思い出そうとするけれども、私の心の中から、違う私が、それを引つ張るのです。そのことを私は、とても恐怖に感じてきました。私の中には、たくさんの私がいることを感じてきました。

私のこの身体は、今、自分の思うように動きません。でも、私の思いは、この私の身体を自由に動かすことができるのです。本当は、私のこの身体を自由に動かすことができる。そう、私は、それが、怖くて、怖くて、私は、今の状態になりました。

私は、今の状態になってよかったんだと思っています。そうでなければ、私の心の底にある思いが、この私の肉体を動かし、私は、また真つ黒な私だけが、前面に出てくるような気がしてなりません。今、私は、自分の身体が自由に動かないこの状態の中で、自分の思いを見ようと思っています。

異語。

\*\*\*さん、あなたがもう少し、自分の心を見るといいうこの学びを、あなたの中で、進めていかれたときに、あなたの心は、感じてくるでしょう。

あなたの今の状態は、あなたの思いの表れでございます。あなたの心の中に、とても激しいものがございます。人を蔑む思い、人を憎む思い、自分を殺してきた思い、とても、さまざまな思いがございます。そのあなたのエネルギーが、あなたに気付かせるために、今のあなたの状態に、自分自身を導いていったのでございます。あなたは、その不自由な身体で、あなたの心を見たい、そのように自分に伝えました。

すさまじいエネルギーに、今世こそ、自分を見失ってはならないと、そのエネルギーにブレーキをかけるために、まず、その身体を自由に動かさなくして、私は自分を見つめていこう、



そういう思いで、あなたの今の状態になりました。

あなたは、まだ、このことを聞いても、自分の中で、合点がいかないと思います。自分は自由な身体になりたい、不自由を呪ってきたあなたの思いばかりが出てくると思います。しかし、あなたは、この学びを、そうあなたの中で進めていってください。

身体が自由に動かないことに対して、あなたは、心の中から喜びが湧いて出てくると思います。すさまじいエネルギーとともに、あなたの中から喜びが湧いて出てくると思います。不自由な身体なのに、なぜ、こんなに喜びが出てくるのか、あなたは、それを信じられないかもしれせん。でも、あなたが計画してきたことなのです。

心を見てください。あなたの肉体細胞から、喜びがどんどん伝わってきます。あなた自身の思いが伝わってきます。私は、そう感じます。

肉体細胞に思いを向けていってください。そして、あなたが広げてきた心の世界、すさまじい心の世界を、どうぞ、見ていってください。

これから、あなたの学びが始まっていくと思います。奥さんとともに、心を見る、その道に就いていってください。ただ、心を見ていくのです。肉体細胞に心に向け、お母さんに心に向け、どんな心を広げてきたか、ひとつずつ、焦らずに、ゆっくりと見ていってください。

七八、\*\*\*さん、心を語ってみてください。

私は、\*\*\*でございます。アマテラスの心を自分の中で見ていくことは、とても難しいと、私は思ってきました。己が偉かったんですね。私は、そびえ立っていました。そびえ立つということは、冷たいことでした。

自分に冷たかった。お母さん、私は、自分に冷たかったです。お母さんに教えていただいた本当の優しさを、私は、自分の冷たさで消し去っていました。この心では、アマテラスの思いを自分の中で受け入れることはできませんでした。アマテラスの思いを受け入れていく、それは、優しさ、本当の優しさじゃないとできないということを、私は、反省瞑想の中で、つくづく感じています。

アマテラスは素晴らしいものとして、過去よりずっと私の中で、上に置いてまいりました。アマテラスの僕となって、私は、ずっと自分をそのように律してきたのだと思います。

\*\*\*さん、アマテラスの心を、もう少し語ってみてください。

私は、\*\*\*。はい、そう、アマテラスの心は、私の中で、ずっと、ずっと、ずっと、ずっと、私の心の中で、大きく、大きくなっていました。アマテラスの心を語りなさいと言われても、アマテラスとまさに、一体化しておりました。すべてが、私の思うことすべてが、アマテラス一色でございました。それが、今世までの私でございました。今世、ようやく、私は、そのことが、間違いであった、私の本当の心を分からなくしてきた大きな、大きな原因だったことを知りました。心で、少しずつ感じてきています。

アマテラスの心を心として生きていくことは、私にとって、とても素晴らしいことだと思ってきた。それが、そうではなかった。アマテラスのほうに心を向けると、アマテラスの苦しき、アマテラスの暗さ、アマテラスの冷たさ、アマテラスの孤独、そういうものを、私は感じてきました。

こういうものを、私は、素晴らしい、素晴らしいものとして、自分の中で大きく、大きく膨らませてきたのかと思って、私は、自分の中を見るように心掛けました。

異語。

冷たくそびえ立ってきたアマテラスの心、今世どこまで自分の中で受け入れられるか、分

かりませんが、私は、そのことをひたすらにしていこうと思います。幸い、私の周りの人達も、この学びに繋がっております。今世、その繋がりの中で、私達は、心を見ていこうとしたんですね。それが、今、とても嬉しいです。

日本の国に、生を受けたこと、そして、この学びに繋がったこと、アマテラスを見つめてまいります。優しい思いで見つめてまいります。

七九、 \*\*\*\*さん、思いを語ってみてください。

私は、 \*\*\*\*でございます。私は、 \*\*\*\*、 \*\*\*\*を誇つてまいりました。心の中に田池留吉を思い浮かべるとき、私は、この身を誇つてきた。私を認めなさい。田池留吉、私を認めなさい。この思いを、強く、強く、田池留吉に向けてきました。私は、肉でございました。田池留吉を肉として見てきた私の心がございます。とても苦しいです。自分の周りの人達に、この思いを広げてきました。まず、私を認めなさい。それから、あなたを認めます。まず、私を認めなさい。そして、私の言うことを聞くのです。私は、立派なんですよ、私は、素晴らしいですよ。その思いを広げてきました。心を見るといふこの学びに繋がりましたが、私は、

この心をひた隠しにして、貞淑な妻を演じてまいりました。とんでもございませんでした。私は、この心にすさまじいエネルギーを抱え、夫に仕え、舅、姑に仕えてきました。すべては、愚かな私のなせることでした。

本当に頭隠して尻隠さず、どんなに繕っても、繕っても、私のエネルギーは、そう、みんなに流れていました。だから、私は、とても苦しいものが、自分に返ってきました。自分の心が苦しいということを、私は、自分に教えていたのに、己が偉かったから、私は、それに、なかなか気付かなかった。感じるということはあるけれども、心で気付く、心でそれを気付く、そして、自分の心を改めるといふところには、至りませんでした。愚かな私を、はい、みんなは受け入れてくれていました。今、そのように、感じます。心を、ようやく、私は、心を語り始めました。苦しかったです。反省をしても、私は、上滑りの反省しかできなかつた。己高しの心を隠したまま、自分を隠したまま、自分の心を隠したままの反省でございました。

八〇、\*\*\*\*さん、あなたを語ってください。

私は、\*\*\*\*でございます。私は、自分を素晴らしいチャネラーだと思ってきました。私

の心に感じたものは、とてもすごいものだと思ってきました。今、私は、その当時の自分を振り返り、本当に恥ずかしい思いでいっぱいです。あの当時は、それでよかったです。みんながその段階だったから、私は、そのお粗末な私を誇っても、私自身どうっていうことはありませんでした。

でも、今、私は、それがとてもちっぽけなものだと感じています。

自分を誇ってきた己というものを、私は知らなかったです。

全く肉でございました。肉で私は、素晴らしい、素晴らしいとやってきたんですね。はい、今、そう感じています。

\*\*\*さん、ホームページを見ておられますか。本はどうでしょうか。CDは聴かれましたか。

あなたは、今、自分の思いを語りましたが、まだまだあなたの中では、今の学びの流れには遅れていると思います。あなたの中には、まだまだ旧態依然の学びが、しっかりと残っているとあります。どうぞ、今、学びがどのところにあるのか、しっかりとあなたの心で感じてみてください。

ホームページを活用してください。たくさん意識が載っています。ホームページは、今、

それが中心です。でも、それは、あなたが、知ってきた学びのものとは、質が変わっていることを、あなたの心は、感じていますか。肉の上辺の思いをそこに並べているというものですが、ですが違います。私は、そうあなたに、お伝えしたいと思います。

心を本当の自分に合わせることに、その難しさをあなた自身、もう少し勉強されて、しっかりと自分の心で感じていってください。

学びの時間は長いかもしれませんが、でも、旧態依然の学び方をしている人達が多いことを、私は、失礼ながら、あなたを代表して、ここにお伝えしたいと思います。

八一、\*\*\*さん、心を語ってみてください。

私は、\*\*\*でございます。心静かに、自分の世界を覗いてみますと、私は、こんなにすごいことを教えていただいたのに、本当に愚かな私を感じざるを得ません。間違っています。田池先生、間違っていました。他力への道をまっしぐらに進んでいった私を、止めてくれるのは、母親でございました。私は母を見下してきました。母を呪ってきました。母を本当に足蹴にしてきたその自分を、心に感じています。

反省と瞑想を自分なりにやってきました。妻もともに学んでいます。私は、その中で、自分がどれほどそびえ立っていたのかということ、母親の反省を通し、自分の心に響いてきています。

他力への道は、もうお止めなさい、母親はそういつて、私に今世の肉をくれました。ああ、でも私は、今世もまた、他力の道を歩き始めました。そして、この学びに繋がりました、この学びに繋がっても、私の心は、以前の他力信仰のところに、ずっとずっと釘付けでした。

そして、従来のセミナーが終わり、私は、セミナーに参加する回数が少なくなりました。その中で私は、もう一度、自分の中で、この学びを振り返ってみようと思い、心静かに、自分の世界を見始めました。

心がどれだけ腐り切っていたのか、他力のエネルギーに驕り高ぶってきた自分を感じたとき、母に、その背中を押された自分は、どれだけ幸せ者だということを感じました。

お母さん、私も、もうそんなに今世の時間は残されていないと思います。心も身体も元気で、しっかりと自分の心を見る時間、それを大切にしていきたいと思えます。心が病んできた私です。その私の心を見ると、そのエネルギーは、身体が健康でなければなりません。そのエネルギーを自分の中で吸収するには、身体が健康でなければなりません。きちんと、自分の心を見るためには、そういうことが大切だと、今、しみじみ思っています。





あなたの意識ではありませんか、参考にしてください 第1巻

---

2009年6月1日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

---

© 2009 Printed in Japan